

2022 年度

国内実地研修報告書

岐阜県関市の地域委員会に着目して

Domestic Fieldwork Report 2022

Exploring the Local Committee of Seki City, Gifu Prefecture



2023 年 3 月
March 2023

名古屋大学大学院国際開発研究科

Graduate School of International Development
Nagoya University

2022 年度

国内実地研修報告書

岐阜県関市の地域委員会に着目して

Domestic Fieldwork Report 2022

Exploring the Local Committee of Seki City, Gifu Prefecture

2023 年 3 月

March 2023

名古屋大学大学院国際開発研究科

Graduate School of International Development

Nagoya University

はじめに

名古屋大学大学院国際開発研究科は、実践教育の一環として、中部地域の中核都市や農村部で国内実地研修（Domestic Fieldwork, 以下 DFW）を 1995 年より実施してきました。その目的は、次の四点です。a) 「開発現場」を知ることの重要性を実感する。b) フィールド調査の基本的方法や姿勢、調査倫理などを習得する。c) 日本の地域開発をめぐる諸問題について学ぶ。途上国における開発問題を考える際の一つのモデルとして、地方行政、教育、農業、環境保護、産業、文化振興など、様々な分野における日本の市町村レベルの開発問題への取り組みについての見聞を広める。d) 異なる社会経済的・文化的背景の学生によるグループ活動を通して、国際的環境における共同作業の経験を積む。

過去 2 年間、新型コロナウイルスの感染拡大という状況を鑑みて、県をまたぐフィールド調査を自粛してきました。今年度は、新型コロナウイルス感染の若干の落ち着きをみて、2 年ぶりに、岐阜県関市にてフィールド調査を実施することができました。実施にあたっては、特定非営利活動法人せき・まちづくり NPO ぶうめらん前代表理事の北村隆幸氏、および関市役所・協働推進部市民協働課、課長補佐、加藤大吾氏および長尾伸也氏に様々な調整をお願いしました。具体的には、関市が実施する地域委員会の活動に焦点をあて、住民が抱く地域委員会（上之保ふれあいのまちづくり推進委員会）への期待や、地域資源を生かした産業育成の試み（かみのほゆず株式会社）、地域委員会（あさひ夢のまち協議会、安桜まちづくり協議会）における女性の役割について、参加学生が二つのグループに分かれてフィールド調査を実施しました。

事前の座学による知識習得にあたっては、前述した北村隆幸氏、加藤大吾氏、長尾伸也氏の他、岐阜大学名誉教授、富樫幸一氏に、関市のまちづくりや地域委員会について事前講義を実施していただきました。参加学生 8 名のうち、一名を除く全員が留学生だったため、日本における地域社会についての概念が乏しい中、事前講義で多くの基礎知識を学ぶことができました。参加学生は、座学で学んだ知識に基づいて、約半年間、調査計画を練り、10 月始めに現地調査に臨みました。11 月には調査の暫定的な結果を現地報告会で報告し、ご出席いただいた関市民協働課職員および地域委員会関係者の方々から、有意義なコメントや助言を頂きました。これらの研修の結果を、このたび、次のとおりに報告書にまとめました。

短期間での研修のため、学生たちの理解が行き届かない点多々あるとは思いますが、関市の地域開発が外部者の目にどう映ったかを把握するための参考資料として、関係者の方々に役立てていただければ嬉しい限りです。今年度の DFW 研修を支援して下さった全てみなさまに、この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。

名古屋大学大学院国際開発研究科

2022 年度国内実地研修委員会

伊東早苗・岡田勇・近藤菜月・鈴木繁聡

目次

Table of Contents

はじめに	i
目次	ii
概要	iv

ワーキンググループ 1

岐阜県関市上之保地域における地域振興と地域委員会の活動に対する地域住民の期待..	1
1. はじめに	3
2. 日本の農村における高齢化と過疎化の問題.....	7
3. 調査結果	9
4. 考察	12
5. 提案	13
謝辞	14
参考文献	14
付録	16

Working Group 1 (English translation)

Expectations of Local People about Local Development and Local Committee's Activities in Kaminoho, Seki City, Gifu Prefecture	21
1. Introduction	23
2. Aging and Depopulation as Questions in Rural Japan	27
3. Findings	29
4. Discussion.....	32
5. Suggestion	33
Acknowledgment.....	34
Reference	34
Appendix	37

ワーキンググループ 2

地域開発における女性のリーダーシップ：

旭ヶ丘地域委員会と安桜地域委員会における女性の参加に関する比較調査	41
1. はじめに	43
2. 予備調査の結果	46
3. 本調査の結果	47
4. 本研究の限界	51
5. 本研究の結論	51
参考文献	52
付録	53

Working Group 2 (English translation)

Women in Leadership Roles of Community Development:

A Comparative Analysis of Women in Leadership Roles of Asahigaoka Local Committee and Asakura Local Committee	59
1. Introduction	61
2. Preliminary Research Findings.....	65
3. Research Findings	66
4. Research Limitations	70
5. Final Analysis and Conclusion.....	70
Reference	71
Appendix	72

概要

2022年度のDFWは、DFWは、日本における開発課題や研究手法、調査倫理などを講義内容に含む国内実地研修特論、および現地でのフィールドワークを行う国内実地研修実習の2つから構成された。

1. 国内実地研修特論

フィールドワーク実習への準備として以下が実施された。

日付	時間	講義内容	講師
4月20日	16:30-18:00	概要説明、チームビルディング	DFW委員会
4月27日	16:30-18:00	岐阜県関市の概要/ぶうめらん活動概要	北村隆幸氏 NPO法人ぶうめらん
5月11日	16:30-18:00	地域委員会の制度	加藤大吾氏、長尾伸也氏 関市役所市民協働課
5月18日	14:45-16:15	各地域が抱える課題	北村隆幸氏 NPO法人ぶうめらん
5月25日	16:30-18:00	各地域が抱える課題（具体的な事例）	富樫幸一先生 岐阜大学
6月1日	14:45-16:15	日本の地方分権化	岡田勇先生 名古屋大学
6月8日	8:45-10:15	中間発表会	国内実地研修委員会
6月15日	14:45-16:15	調査手法（1） 質的調査	フランシス・ペディ先生 名古屋大学
	16:30-18:00	調査手法（2） 量的調査	クリスチャン・オチア先生 名古屋大学
6月22日	16:30-18:00	調査倫理	伊東早苗先生 名古屋大学
6月29日	16:30-18:00	データ分析 質的データ分析	フランシス・ペディ先生 名古屋大学
7月6日	16:30-18:00	グループごとの発表準備	国内実地研修委員会
7月27日	16:30-18:00	調査計画発表会	国内実地研修委員会

2. 国内実地研修実習

各グループの研究課題について相談・検討するため、6月20日に岐阜県関市を訪問し、日帰りの予備調査を実施した。7月末に国内実地研修特論が終了した後、研究課題、調査対象者、調査日程についてグループごとの話し合いを行い、質問票やインタビューガイドの内容を検討した。

引率教員およびTAからのアドバイスをもとに研究計画書を作成し、関市へ9月半ばに提出した。その後、9月30日の出発前オリエンテーションにて現地調査の最終確認をし、10月5日から7日にかけて2泊3日の現地調査を行った。現地調査結果の中間報告は11月4日に関市若草プラザ学習情報館にて実施し、インタビューにご協力いただいた方々より有益なコメントをいただいた。

現地調査における各グループの調査課題、調査目的、調査対象者は次のとおりである。

ワーキンググループ1

調査テーマ：『岐阜県関市上之保地域における地域振興と地域委員会の活動に対する地域住民の期待』

調査課題：

1. 『上之保地域振興計画 2012-2022』に地域住民はどのような期待を抱いているのか？
2. 上之保地域委員会の活動に地域住民はどのような期待を抱いているのか？
3. 『上之保地域振興計画 2012-2022』の計画・実施において、地域住民の参加に影響を与えている要因は何か？

ワーキンググループ2

調査テーマ：『地域開発における女性のリーダーシップ：旭ヶ丘地域委員会と安桜地域委員会における女性の参加に関する比較調査』

調査課題：

1. 旭ヶ丘地域委員会と安桜地域委員会において、女性によるリーダーシップの発揮にはどのような特徴がみられるか？
2. 安桜地域委員会と比較して、旭ヶ丘地域委員会で特に女性がリーダーシップを発揮している要因は何なのか？
3. 旭ヶ丘地域委員会において女性がリーダーシップを発揮するためにどのような方策がとられており、それは安桜地域委員会をはじめとする関市内の他の地域委員会に対してどのように適用できるのか？

3. 2022年度 国内実地研修 参加者リスト

<引率教員/ティーチングアシスタント>

ワーキンググループ	名前
ワーキンググループ 1	岡田 勇
ワーキンググループ 2	伊東 早苗
	近藤 菜月
TA	Abraham SALAZAR LUGO
	Andi SAFITRI

<学生>

ワーキンググループ	名前	国籍
ワーキンググループ 1	Jiayu LI *	中国
	Kim ALLEN	パプアニューギニア
	Thi Hanh Dung CAO	ベトナム
	Alvaro COLLAZOS	ペルー
ワーキンググループ 2	金澤恵佑*	日本
	Judite SIGAUQUE	モザンビーク
	Razia JOYA	アフガニスタン
	Umna LUTHFEE	モルディブ

* グループリーダー

ワーキンググループ1

岐阜県関市上之保地域における 地域振興と地域委員会の活動に対する地域住民の期待

グループメンバー：

リ・ジャユ*

アレン・キム

カオ・ティ・ハン・ダン

コリャソス・アルバロ

指導教員：

岡田勇

* グループリーダー

目次

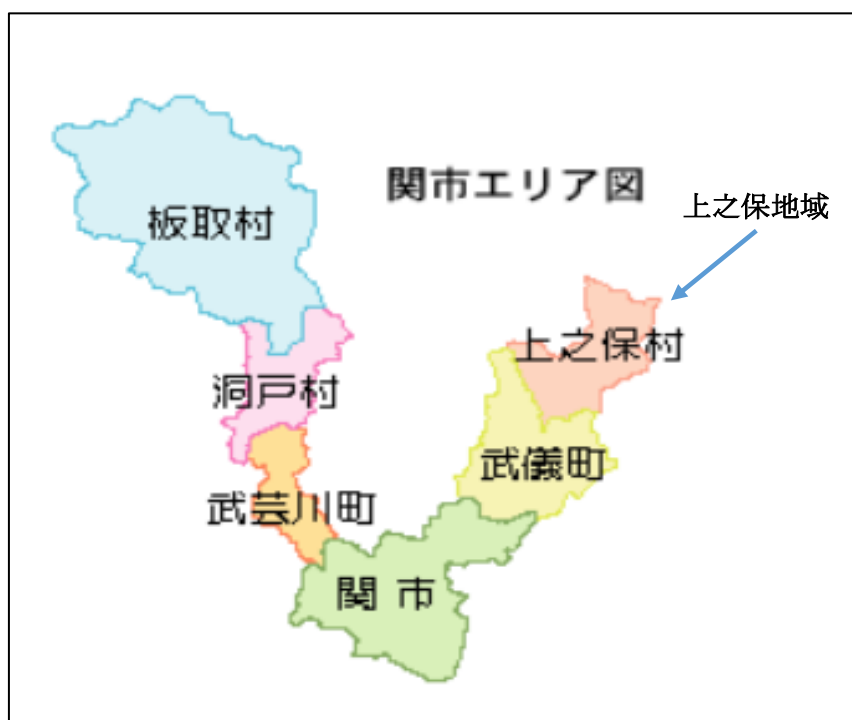
1. はじめに
 - 1.1 研究の背景
 - 1.2 研究の目的と問い
 - 1.3 研究の意義
 - 1.4 研究の方法
 - 1.4.1 調査地
 - 1.4.2 データの収集
 - 1.4.3 本調査におけるフィールドワークの概要
 2. 日本の農村における高齢化と過疎化の問題
 - 2.1 高齢化社会
 - 2.2 過疎化
 - 2.2.1 日本における人口減少の問題
 - 2.2.2 日本の人口減少の要因
 - 2.2.3 人口減少によってもたらされたもの
 - 2.2.4 日本の強み
 - 2.3 人々の期待と参加
 3. 調査結果
 - 3.1 上之保地域の開発についての分析
 - 3.2 上之保地域委員会の活動についての分析
 - 3.3 地域住民の上之保振興計画への期待
 - 3.4 地域委員会の活動に対する地域住民の期待
 4. 考察
 5. 提案
- 謝辞
- 参考文献
- 付録

1. はじめに

1.1 研究の背景

上之保地域は関市の北東部に位置しており、面積は 49.32km² でその 9 割が森林である。上之保地域は 2005 年に平成の大合併の流れの中で関市に編入された山に囲まれた地域である。2022 年 6 月の関市の統計によると、上之保地域の人口は 1,414 人であり、49%が男性、51%が女性である（関市役所 HP 2022）。

図 1: 上之保地域を含む関市の地図

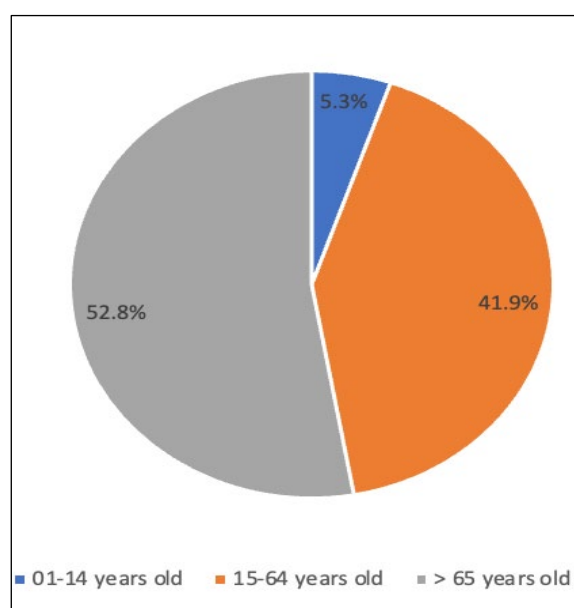


出典： <https://www.city.seki.lg.jp/0000002784.html>

2012 年から 2020 年にかけて、上之保地域の人口には 22.1%の大幅な減少があり、関市内で 2 番目に過疎化が進んでいる（関市役所公式 HP 2022）。高齢者人口の急増と過疎化は上之保地域における最も重要な課題になっている。図 2 からわかるように、上之保地域の人口に占める 14 歳以下の若年層はわずか 5.3%である。そのため上之保地域では「上之保地域の活力を創出すること」と「上之保地域に安心して住み続けられるようにすること」の二つが目標として掲げられている。（上之保地域振興計画、2012 年、p.1）。関市では参加型のまちづくりを推進するため、地域委員会を設置している。地域委員会は関市の地域振興において地域住民が自ら地域の問題に取り組み、よりよい地域づくりを行う上で重要な役割を担っている。関市から交付される予算の使い道も地域の問題を解決するために地域住民たちが自由に決めることができ、住民たちは地域委員会の活動に参加することが奨励されている。

実際、地域委員会（上之保地域の委員会は、上之保ふれあいのまちづくり推進委員会と呼ばれるが、以下では地域委員会とする）は地域住民の参加を促すために様々な活動を実践してきた。しかし、事前調査の結果によれば、地域における高齢者の割合が高い一方で若い人が少ないため、これらの活動に参加する地域住民はそう多くはないということだった。そこで、地域の活動に参加する人が少ない理由について、「地域住民が抱く期待」という観点から説明を試みることにした。よって本研究では、『上之保地域振興計画』（詳細は後述）や地域活動に対する地域住民の期待を検証するとともに、それらの期待が地域委員会の活動への参加や協力にどのような影響を与えているのかを検討する。

図 2：上之保地域の年齢層別人口比率（2022 年 6 月）の推移



出典：2022 年 6 月の関市統計より筆者らが算出。

1.2 研究の目的と問い

本研究の目的は、上之保地域の発展に向けた計画である『上之保地域振興計画』に対して、上之保地域の地域住民が抱いている期待を明らかにすることである。上之保地域で実施した事前調査（付録 A 参照）において『上之保地域振興計画 2012-2022』の実施について調査したところ、高齢化を背景に地域活動への参加が不足していること、そしてモニタリング（経過観察）などから必ずしも『上之保地域振興計画 2012-2022』に沿った活動が実施されていないことなどが明らかになった。地域コミュニティでの実践における地域住民の参加を促すためには、まず『上之保地域振興計画 2012-2022』の実施状況を評価する必要があるだろう。また、地域委員会は NPO 法人ぶらめらんのサポートを受けて配布・分析したアンケートに基づいて、『上之保地域振興計画 2021-2025』という新たな五ヵ年計画も作成している。地域委員会は『上之保地域振興計画』の実施において地域住民の参加と協力が必要だと考えているが、事前調査を通じて地域委員会と地域住民、さらにはそれ以外のステークホルダー（利害関係者）の間の連携にも課題があることがわかった。

そこで、本研究では『上之保地域振興計画 2012-2022』の策定・実施に参加した上之保地域の関係者を対象に、計画の実施に対する意見や参加の度合いを検討することにした。具体的には、地域委員会や地域住民に調査を行い、『上之保地域振興計画 2012-2022』を実施する上での課題を明らかにする。事前調査の結果と研究の目的を踏まえて、以下の3点を本研究の課題設定とした。

1. 『上之保地域振興計画 2012-2022』に地域住民はどのような期待を抱いているのか？
2. 上之保地域委員会の活動に地域住民はどのような期待を抱いているのか？
3. 『上之保地域振興計画 2012-2022』の計画・実施において、地域住民の参加に影響を与えている要因は何か？

1.3 研究の意義

本研究の知見は、地域住民のコミュニティへの参加を促す上で何が効果的なのかを示唆するとともに、上之保地域の発展のために地域住民がどのように協働できるのかもまた示唆するだろう。本研究を通して地域コミュニティへの参加、および上之保地域の経済と発展を促進する知見を示すことで、地域委員会に貢献することが期待できる。加えて、地域コミュニティを発展させていくためのよりよい計画の策定と地域関係者の参加の促進にも資することが期待される。

1.4 研究の方法

1.4.1 調査地

岐阜県は日本の中央に位置し、面積は 10,621 km² で全国 7 位である。人口は 1,941,463 人（2023 年 1 月 1 日現在）で総務省「2020 年国勢調査」では全国 17 位と多いほうであるが、2015 年から 2020 年までの 5 年間で約 5 万 3 千人の減少があり、人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合は 2020 年の時点で 30.4% になっている。（岐阜県公式 HP・「統計からみた岐阜県・市町村の現状」）

関市は岐阜県の南部に位置し、面積は 473.2 km² である。2020 年の関市の人口は 87,266 人で、人口密度は 193.3 人/km² となっており、全国平均の 340.8 人/km² よりはるかに低い数値である。

本調査は関市内の 12 地域のうち、北東に位置する上之保地域で行った。上之保地域の人口は 1,414 人（2022 年 8 月時点）である。調査地域として上之保地域を選んだ理由は二つある。第一に、上之保地域は人口減少や高齢化が深刻な日本の典型的な農村地域の一つだったからである。2012 年から 2020 年までの 8 年間で上之保地域の人口には 22.1% もの減少があった。さらに 75 歳以上の高齢者割合も増えている。こうしたことを受けて、自治体や地域の住民は安心して暮らしていけるよう快適な生活を築きながら地域を活性化させることを目指している。第二に、平成の大合併後、上之保地域は関市で最初に地域委員会を立ち上げて振興計画の実施に取り組んできた地域だったからである。上之保地域では 2016 年に地域委員会が設置されたが、それに先立って 2012-2022 年までの 10 年間の振興計画を策定していた。その後、地域委員会はこの計画を改訂し、2021 年-2025 年の計画として策定し直した。しかし、その計画に沿った活動はあまり多く行われておら

ず、地域住民の参加もあまりないように思われた。そこで、詳しい状況を把握するために調査を行った。

1.4.2 データの収集

本研究は主要なステークホルダー（利害関係者）を対象に、詳細なインタビューを行う単一事例研究を行った。まず、2022年7月6日に上之保地域で事前調査を実施し、上之保地域の現状の課題や可能性、『上之保地域振興計画』の課題などを把握した。事前調査で得られた知見を踏まえて、2022年10月4～6日に上之保地域で本調査を実施した。データの収集は半構造化インタビュー、グループインタビュー、参与観察によって行った。同時に、上之保地域委員会・関市役所・NPO法人ふうめらんの報告書や計画書をはじめとするデータも収集した。

なお、インタビューの対象としたのは以下の4者である。

- ①地域住民（上之保地域の開発・振興の主体）
- ②民間企業（上之保地域の開発・振興の主体）
- ③NPO法人ふうめらん（地域委員会への助言や研修、さらには『上之保地域振興計画 2021-2025』を作成するための調査にも協力している）
- ④地域委員会（振興計画の実施主体）

本研究ではこれらのグループ間において、上之保地域の発展に対する一般的な期待および生活や仕事に対する期待にどのような違いがあるのかを明らかにし、各グループの期待が地域活動への協力や参加にどのような影響を与えているのかを検討する。

インタビューやデータ収集は、ティーチングアシスタントや日本語を話せるメンバーによる通訳を介した日本語で行った。

1.4.3 本調査におけるフィールドワークの概要

学生4名からなる研究チームはティーチングアシスタントと指導教員のサポート・指導のもとで、上之保地域の住民や家族、地域委員会などの関係者を対象に個別インタビューやグループインタビューを実施した。参与観察は「かみのほゆず株式会社」と「ネイチャーランドかみのほ」の2カ所で行った。研究参加者の総数は表1の通りで、具体的にはかみのほゆず株式会社社長・地域委員会会長・NPO法人ふうめらん代表の男性3名、グループインタビューを行った合唱団の女性14名、無作為抽出による8世帯への訪問と1世帯への指名訪問によってインタビューを行った地域住民11名（女性6名、男性5名）である。インタビュー対象者の年齢層は、50～89歳だった。

表 1：上之保地域でのフィールドワークの概要情報

No.	内容	インタビュー	
		女性	男性
1	地域委員会、NPO 法人ぶうめらん、かみのほゆず社長へのインタビュー	0	3
2	合唱団へのグループインタビュー	14	0
3	明ヶ島・行合・川合地区での 8 世帯訪問 鳥屋市地区での 1 世帯の指名訪問	6	5
4	かみのほゆず株式会社加工場、ゆず農園、ネイチャーランドかみのほでの参与観察		

表 2：上之保地域での家庭訪問リスト

No.	名称	年齢		地域
		女性	男性	
1	A 夫妻	75 歳前後	75 歳前後	行合
2	B さん	55 歳前後	—	明ヶ島
3	C 夫妻	65 歳前後	70 歳前後	鳥屋市
4	D さん	65 歳前後	—	川合
5	E さん	65 歳前後	—	川合
6	F さん	89 歳	—	川合
7	G さん	53 歳	—	明ヶ島
8	H さん	65 歳前後	—	行合
9	I さん	—	75 歳前後	明ヶ島
10	J さん	—	75 歳前後	明ヶ島
11	K さん	—	75 歳前後	川合

地域委員会・NPO 法人ぶうめらん・かみのほゆず株式会社へのインタビューと合唱団を対象にしたグループインタビューについては、フィールドワークの実施前から計画していた。同様に、かみのほゆず株式会社、ネイチャーランドかみのほでの参与観察も事前に計画していた。

一方、無作為の世帯訪問については、調査チームが 2 つのグループに分かれて 4 つの地区の世帯を訪問した。事前に予約を入れていた 1 組の夫婦へのインタビューを除いて訪問する世帯は決まっておらず、世帯インタビューは調査チームが地域住民の自宅を訪問して研究についての説明を行い、同意を得てから行ったものである。調査は 3 日間にわたって行い、1 日目と 3 日目は大学と現地間の移動が含まれるため、インタビューと参与観察は基本的に 2 日目に行っている。調査期間中は天気が悪かったが、それでも予定していた調査は終えることができた。

2. 日本の農村における高齢化と過疎化の問題

2.1 高齢化社会

高齢化社会は世界的な現象であり、今後もすべての地域（特に一部の先進国）に影響を及ぼすことが予想されている（Binsock など, 2014）。2050 年には、60 歳以上の高齢者が 20 億人となり、

老年層と若年層が同数になると言われている (Harper, 2014)。その中でも日本は、少子化や医学の発達、平均寿命の伸びなどを理由に (Magnus, 2012)、世界の中でも超高齢社会と言われている (Muramatsu & Akiyama, 2011)。上之保地域は地域住民の 50%以上が高齢者であり、高齢者の多くは交通の便の悪さや、地域とのつながりの欠如、さらには一人で暮らさざるを得ない状況に直面している。したがって、上之保地域は日本における高齢化社会の典型的な事例であると考えられ、このような問題にどのように対処し、高齢化社会のニーズに対応したインフラ計画や地域活動を再考することが喫緊の課題になっている。上之保地域では健康で長生きするための政策や計画が策定されているため、そこにどのような課題があり、どのような改善策が考えられるのかを地域住民や地域委員会に伝えることで、上之保地域における政策や計画がより効果的になる可能性があるだろう。

2.2 過疎化

2.2.1 日本における人口減少の問題

日本では先述の高齢化社会の問題と並行して、1970年代を境に減少している日本の出生率の問題がある。日本の出生率は女性 1 人当たりの数値がかろうじて 1.36 人を超える程度と世界でも最低の部類の水準であり、女性 1 人当たりの数値が 2.1 人と推定される人口置換率からは程遠い (Tsuchiya, 2020)。高齢化社会と少子化現象の組み合わせは当然ながら人口の縮小をもたらしている。実際、日本における 2011 年以降の人口減少には歯止めがかかっていない。2020 年だけでも日本の人口は約 40 万人減っており、将来的な推計では 2020 年の約 1 億 2600 万人から 2040 年には約 1 億 1100 万人、2065 年には約 8800 万人になることが予想されている (Sadafumi, 2017)。つまり、今後 40 年間で日本は人口の 3 割以上を失うことが予想されており、これは前代未聞の人口減少といえる。

このような人口の変化は、経済を筆頭にあらゆる分野で重要な意味を持つだろう。例えば、2016 年の OECD の報告書では、2050 年には日本の生産年齢人口が 2000 年当時と比較して 61.8%に減少することが予想されている。

2.2.2 日本の人口減少の要因

これらの人口減少の要因は何であり、社会や政府にはどのような責任があるのだろうか。まず、日本社会は家庭を持つ意欲が失われやすい社会であることが指摘できる。日本では非常に長い労働時間に従事しなければならず、子どもを持つ余裕がないことが多い。さらに、日本では医療休暇や出産・育児休暇を取得することが社会的に受け入れられているとは言い難く、休暇の取得が職場での評価に悪い影響を及ぼすこともある。実際、日本の法律では 36 週間の有給の産休が認められているが、産休の取得には文化的な障壁があることが指摘されている (Higuchi, 2022)。

出生率に影響を与えるもう一つの社会的な要因は、日本人が恋愛をしない傾向が強まっていて、人口の 35%以上が一人暮らしをしていることである (Arakawa, 2020)。

2.2.3 人口減少によってもたらされたもの

厚生労働省が管轄している「国立社会保障・人口問題研究所」の予測では、2040年までに日本の約896の市町村が消滅の危機に瀕しており（D'Ambrogio, 2020）、年間400～500校が廃校になる（早川, 2012）と予想されている。

2.2.4 日本の強み

高齢化や過疎化という大きな課題があるにもかかわらず、それら以外の日本の統計の数値は良好である。例えば、日本は税金を払った後の世帯収入が最も多い20カ国のうちの1つである。2020年のOECDの報告書によると、日本の純所得は28,872ドルで、デンマークやフィンランドなどの国々と同レベルであり、これはイギリスやニュージーランドの数値を上回っている。また、日本は借金を差し引いた後の家庭の経済的な豊かさの平均がよい数値であり、平均寿命は最も長く、安全な国の一つであり、教育レベルではPISA指数（OECD, 2020）でもトップクラスである。

また、日本の国債は2021年にGDP比265%という驚異的な数値に達してしましたが（Trading Economics, 2021）、日本政府も相当量の金融資産を保有しており、純債務は168.1%程度にまで減少している（Knoema, 2021）。さらに、国債の主な債権者は日銀である（Bank of Japan, n.d.）。つまり、日本には対外債務がなく、その債務はすべて日本人の手元にある点で他国と比較して良好な財政状況であるといえる。

2.3 人々の期待と参加

このように、日本は大きな課題を抱えると同時に、多くの強みも持っている。本研究はこのような状況に対して、日本の人々がどのようなことを期待しているのか、その強みと弱みをどの程度認識しているのか、それらの課題解決のための取り組みにどの程度参加する意思があるのかを分析しようとするものである。本研究による見通しは、今後日本が直面する大きな課題を解決するための政策を考える際に、人々への影響を分析することに資すると考えられる。

3. 調査結果

3.1 上之保地域の開発についての分析

インタビューを通じて、上之保地域では地域社会における住民同士の関係が良好であることがわかった。例えば訪問調査では、インタビュー対象者が個人宅で自立しつつも、助け合いながら生活していることがわかった。例えばFさんやAさんは子どもの支援を得ずに生活している。CさんやDさんは普段から助け合いながら生活しており、近所にも気を配っていると言っていた¹。

¹ 「食料品店にはどうやって行っているのか？」という質問に対して、ある人は「車で買い物に行けるし、近所の人を乗せて一緒に買い物に行くこともある」と答えていた。

したがって、地域で何か問題が起きても地域住民たちは互いに協力することでその問題を解決できる可能性が高いと考えられる。

地域住民たちはインタビューで上之保地域のことを聞かれると、「上之保地域が好きだ」と明快に答えていた。インタビューでは上之保地域のきれいな環境、自然、美しい風景などを誇りに思っている様子が伝わってきた。

上之保地域の住民が上之保地域の生存戦略のために手を取り合って地域活動に積極的に参加しているのは、地域コミュニティの強さによるものだと考えられる。上之保地域の農業は縮小傾向にあるが、ゆず農家は地元産の農作物としての「ゆず」の生産を継続させるために努力しており、上之保地域の「ゆず」の価値は他地域からも認められている。今後も、学生に農業生産の価値を知ってもらうために農村の生活を体験してもらうフィールドスタディーツアーを行うなど、ゆず農園やキャンプ場である「ネイチャーランドかみのほ」が持っている資源を活用した新しいビジネスのアイデアが生まれるかもしれない。

一方で、インタビューに答えてくれた地域住民の多くが、上之保地域には基本的なサービスがないことに不満を抱いていた。地域のニーズに応えるサービスを提供することは、上之保地域の経済的なチャンスとも捉えられる。

地域住民の多くは上之保地域が良くなることを望んでいるものの、上之保地域が多くの深刻な問題に直面していることもまた認識していた。過疎化の進行を背景に上之保地域では商売が立ち行かなくなり、雇用の場も狭まっている。同時に、若い人が少なく出生率も非常に低い。

これらの弱点によって上之保地域にあるいくつかの地区は、急激な人口減少に耐えられずに消滅してしまう可能性もある。地域委員会の会長によれば、上之保地域内の6つの地区のうち2つの地区にはまもなく人が住まなくなってしまう可能性があるという。上之保地域では高齢化が進んでいるが、医療施設や医療従事者が不足しているため、地域住民の心や身体の健康を保てない可能性がある。また、上之保地域には若い人が少なく、上之保地域を維持・発展させるための労働力の確保は行政や住民にとって大きな課題となっている。

3.2 上之保地域委員会の活動についての分析

上之保地域委員会の活動については、合唱団に所属するほとんどの人がグループ活動に参加することで健康になって孤独感も和らぐため、喜んで参加していると答えていた。地域住民の中には日常的な集まりには参加していないものの、お祭りのような大きなイベントには参加しているという人もいた。地域委員会の存在は知られており、インタビューした住民の中には地域委員会で意見を言いたいという人がいたことも上之保の地域委員会の強みと言えるだろう。このような強みをもとに、地域委員会は住民のニーズに基づいた活動を組織し、調整することができる。

しかし、地域委員会のすべての活動が地域住民のニーズや興味を満たすのは難しく、地域住民の中には地域委員会の活動にあまり参加していない住民もいた。また、高齢者の中には車の運転免許を持っておらず、バスに乗って移動する必要があることから、気軽に地域委員会に参加できていない人もいた。地域住民にとっての最優先事項は公共サービスの改善であり、地域委員会に

は公共サービスの改善に取り組んでほしいと考えている住民もいた。また人数は少ないものの、地域委員会がどのような活動をしているのかを詳しく知らない住民もおり、中には地域委員会の活動と関市役所の活動を混同している人もいた²。このことは、『上之保地域振興計画』が上之保地域であり知られていない理由の一つかもしれない。

以上の理由から、地域委員会の活動は地域住民の期待を十分に満たしているわけではなく、そのことは地域住民が地域委員会の活動に参加しない要因の一つになっている可能性がある。関市のまちづくりは、地域住民が主役になるような参加型のまちづくりを目指している。そのため、地域住民の参加や協力が得られないと振興計画が十分に進められず、豊かな自然や人とのふれあいを誇りに持つ人々の暮らしを活性化させるという目標が達成できない可能性がある。

3.3 地域住民の上之保地域振興計画への期待

上之保地域におけるインタビューでは、クリニック・医療サービス・食料品店といった生活に必要な施設が足りていないことを懸念する声も多かった³。自動車を持っておらず、バスなどの公共交通機関に頼らざるを得ない人々にとっては、これらの生活に必要な施設を利用することすら難しい状況である。

インタビューを通して、上之保地域の住民が「期待」について語る時には、典型的なパターンがあることがわかった。まず、インタビューの始めのうちには上之保地域の発展について否定的であり、過疎化と高齢化社会の深刻化が懸念として語られる。しかしインタビューを続けていくと、ほとんどのインタビュー対象者は地域の団結力⁴、高齢者たちの活力⁵、上之保地域への愛着⁶に基づいて希望を語りだすのである。

この希望や前向きな期待は、フィールドワークで見た上之保地域の実態からも裏付けられるものであった。上之保地域は一見、大都市に比べると発展していないように見えるが、電気・ガス・水道のような必要不可欠な公共設備はすべての調査先で供給されていた。また、道路も整備されており、レストランや住宅などの私的空間も機能していて、地域委員会のような公的空間もあった。加えて、犯罪や社会的混乱といった脅威は事前調査や本調査のフィールドワークでは感

² 地域委員会の活動について聞いた際に、関市役所が行っている活動について答えた地域住民もいた。

³ 例えば「高齢者の買い物で一番不便なのは、高齢者しか住んでいない上之保の家から 5km 近く離れているところまで買い物に行かなければいけないことです」と回答した人がいた。学校や病院についても同様である。

⁴ 上之保地域の強みについて聞いたところ、合唱団のメンバーは「（強みは）上之保の人たちの絆、連帯感、結束力です」と答えた。

⁵ 近所同士の会話について聞いたところ、「いつも話題は老後。みんな心配そう。でも、私は元気だし、まだバスにも乗れるし、近所の人も元気だと思います」という意見があった。

⁶ インタビューでは「上之保の自然が大好きなので、ここを離れるつもりはありません」という意見があった。また、「上之保は川もきれいだし空気もきれいなところですよ」という意見もあった。

じられなかった。このように、大きな食料品店や病院、学校がないにもかかわらず、上之保地域の環境は地域住民に今後の発展についての期待をもたらしている。

3.4 地域委員会の活動に対する地域住民の期待

加えて、インタビュー対象者たちの語りにはもう一つのパターンがあった。それはほとんどの人が新型コロナウイルス感染症の拡大によって、地域委員会の活動が影響を受けたことを認識しているということだった。具体的には感染症の拡大を受けて地域での活動を突然止めざるをえなくなっていたことを知っていた⁷。もともと地域委員会の活動では住民たちが楽しくおしゃべりをして新しいことを学んだり、体を動かしたりすることができており、それらは健康を維持する上で重要だと認識されていた⁸。現在は活動が止まっているためそのため、早く再開してほしいと切に願う声もあった。

事前調査や本調査でのフィールドワークを踏まえても、この傾向には納得がいく。例えば、地域委員会主催の合唱団では温かくて力強い活動が行われていた。

4. 考察

以上を踏まえると、上之保地域における地域活動や振興計画の遂行に影響を与える主な要因として、以下の5つを指摘できる。

・モビリティ（動きやすさ）

バスをはじめとする公共交通機関は地域住民、中でも特に高齢者にとって常に利用できるわけではない。公共交通機関に頼らざるをえないことを理由に地域委員会の活動に参加できないと語る人もいた。加えて、地域委員会の活動に参加するための移動手段だけでなく、緊急時における病院への移動手段や、1週間分の食料品の買い出しに行くための移動手段が欲しいという要望がある。

・近所付き合い

上記のような移動手段の制限があるため、自動車や運転免許を持っている地域住民は、地域委員会の活動に参加したり、病院や買い物に行ったりする際に、近所の人と一緒に連れて行ってあ

⁷ 「コロナ禍で地域委員会の活動が止まってしまい、高齢者は外に出られなくなってしまった。コロナ禍になる前はみんなが行事に来てくれたし、楽しい時間を過ごせてコミュニケーションもスムーズだったけれどすべてが変わってしまった」という意見があった。

⁸ 合唱団のある人は「歌の活動は私たちに生きる活力と希望を与えてくれます。歌は病気が治るときにも役立ちます。私たちは70歳を超えましたが、まだまだ元気に活動することができます。コーラスは、私たちが集まって一緒に何かを創ったり良い友人を作ったりできて、一緒に楽しい時間を過ごしながら話をする貴重な機会です」と話してくれた。

げることが多い。インタビューでは上之保地域で多くの住民が「近所の人を助けよう」と考えていることもわかった⁹。

・期待のズレ

インタビューでは上之保地域の将来への希望や、地域委員会の活動の再開を望む声が聞かれた。しかしその一方で、『上之保振興計画』が地域住民たちの期待に十分に込んでいるとは言い切れない。住民たちは上之保地域を発展させる以前の問題として、交通機関・病院・食料品店などの生活に必要な施設・設備の改善を求めている。住民には生活に必要な医療や買い物といったニーズが喫緊の課題としてある。予算の制約などがあるとはいえ、この点を問題として抱え続けることは、地域委員会への期待にも影響すると考えられる。地域委員会が地域住民の期待を正確に捉えないと、地域委員会の活動への潜在的な参加者にマイナスの影響を与える可能性があるだろう。

・地域委員会の活動と関市役所の活動の混同

地域委員会のコンセプトとその活動について、地域住民の間で様々な混乱が見られた¹⁰。

・産業の発展

過疎化が進む中で上之保地域において営める産業にも限りがあるため、公共設備や交通手段にかけられる予算も少なくなっている。地域住民たちは美しい山々や温泉がある風景に誇りを持っているが、これらの利点は日本の地方では必ずしも珍しくないため、もっと独自性を出していく必要がある。例えば同じ「ゆず」でも、高知県の方がゆずジュース・ゆずシャンプー・ゆず化粧品などのゆず製品で有名である。そのため、上之保地域のゆず会社が他のゆず製品と競争することは大変な困難であることが予想される。しかし、上之保地域独自のゆず製品を作ることができれば、ゆずの製造工程に観光客が参加する体験なども提供できるかもしれない。また、ゆずづくりは上之保地域でのキャンプにつなげることもできる。過去3年はコロナ禍によりキャンプ場を訪れる人も減少しているが、ゆずの製造とキャンプをつなげることなどは上之保地域の新たな魅力になる可能性を秘めている。

5.提案

地域住民たちが自力で生活に必要な設備・施設にアクセスするのではなく、上之保地域委員会が生活に必要なサービスを上之保地域の住民の近くに持ってくるように、サービスの供給者と協力したり交渉したりすることはできないだろうか。

⁹ 「上之保では昔から農作業を手伝ったり、一緒に買い物に行ったりしていた。私は普段近所の人と飲みに行くことはありませんが、頻繁に連絡を取り合って、必要な時には助け合っています」という意見があった。

¹⁰ ある人はインタビューの際に地域委員会の活動と関市役所の活動を混同していた。また、地域委員会の活動は高齢者が中心になっており、若者は参加しにくいと考えている人もいた。それ以外にも、地域委員会よりも関市役所に直接話を通した方が早いと答えた人もいた。

また、インタビューでは「上之保地域のイベントやお祭りが、自分たちを幸せで健康的にしてくれている」という語りがたくさん得られた。地域活動への参加は、健康や生活の質にプラスの影響を与えていることがわかっている (Ghenta, M et al., 2022)。したがって、地域委員会は活動を今後も継続的に行いながら、地域住民が地域委員会の活動に参加して自ら期待を実現する機会を増やせるように働きかけてみてはどうだろうか。また、合唱団は上之保地域で最も有名かつ活発な団体の一つであるが、この団体の参加者は女性に限定されている。したがって、男性も活動に呼び込むなど、性別に関係なく同じように学びながら話し合う機会を提供することもできるのではないだろうか。これらの解決策は、上之保地域の住民が快適な生活を送ることにつながるとともに、地域住民の地域活動における主体性を引き出すことにもつながると考えられる。

さらに地域委員会は NPO 法人ふうめらんや大学と連携ながら、作物の収穫やあぜ道の清掃のような若い力が必要とされる地域活動を支援することもできる。若者との交流は高齢者に新たなエネルギーをもたらすことも期待できるだろう。

謝辞

関市役所および上之保地域委員会の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。また、上之保地域でのフィールドワークの際にコーディネートなどを通して支援して下さった NPO 法人ふうめらんの北村隆幸様にも感謝申し上げます。そして、インタビューで貴重な情報を提供して下さったり、上之保地域で温かく迎え入れて下さったりした地域の方々に感謝いたします。

加えて、現地調査という貴重な機会をくださった DFW 委員会にも感謝したいです。特に、岡田勇教授にはご指導ご鞭撻だけでなく時には通訳までしていただき、フィールドワークと報告書の執筆に多大なご協力をいただきました。また、DFW のティーチングアシスタントである Nini さんにも感謝します。DFW で通訳をして下さって本当にありがとうございました。

参考文献

Arakawa K. (2020, January 13). *A Community of Connections: Looking Forward to the Solo Society*.

Nippon.Com. Retrieved December 5, 2022, from <https://www.nippon.com/en/japan-topics/g00768/a-community-of-connections-looking-forward-to-the-solo-society.html>

Bank of Japan. (n.d.). *Outline of Financial System Stability: 日本銀行 Bank of Japan*. Bank of Japan.

Retrieved January 7, 2023, from <https://www.boj.or.jp/en/finsys/outline/index.htm>

Binstock, R. H., George, L. K., Cutler, S. J., Hendricks, J., & Schulz, J. H. (Eds.). (2011). *Handbook of aging and the social sciences*. Elsevier.

D'Ambrogio, E. (2020). *Japan's ageing society*. Retrieved December 8, 2022, from [https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/BRIE/2020/659419/EPRS_BRI\(2020\)659419_EN.pdf](https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/BRIE/2020/659419/EPRS_BRI(2020)659419_EN.pdf)

- Facts about Gifu Prefecture—岐阜県公式ホームページ（広報課）. (2013). Retrieved August 17, 2022, from <https://www.pref.gifu.lg.jp/site/english/209.html>
- Ghenta, M., Matei, A., Mladen-Macovei, L., & Bobârnat, E. S. (2022). Factors Associated with the Participation of Older Adults in Cultural and Sports Activities. *International journal of environmental research and public health*, 19(10), 6244. <https://doi.org/10.3390/ijerph19106244>
- Guetterman, T. C., Babchuk, W. A., Howell Smith, M. C., & Stevens, J. (2019). Contemporary approaches to mixed methods—grounded theory research: A field-based analysis. *Journal of Mixed Methods Research*, 13(2), 179-195
- Harper, S. (2014). Economic and social implications of aging societies. *Science*, 346(6209), 587-591.
- Knoema. (2021). *Japan General government net debt (% of GDP), 1980-2021—Knoema.com*. Knoema. Retrieved January 7, 2023, from <https://knoema.com/atlas/Japan/topics/Economy/Financial-Sector-General-Government-finance/General-government-net-debt-percent-of-GDP?origin=jp.knoema.com>
- Magnus, G. (2012). *The age of aging: How demographics are changing the global economy and our world*. John Wiley & Sons.
- Hayakawa, N. (2012, May 7). *Declining Birthrate Changing Japan's Schools*. Nippon.Com. <https://www.nippon.com/en/column/100018/>
- Higuchi, Y. (2022). *Japan Labor Issues Volume 6 Number 36, January-February, 2022*. 64.
- Muramatsu, N., & Akiyama, H. (2011). Japan: super-aging society preparing for the future. *The Gerontologist*, 51(4), 425-432.
- OECD. (2016). *OECD Territorial Reviews: Japan 2016*. OECD. <https://doi.org/10.1787/9789264250543-en>
- OECD. (2020). *How's Life? 2020: Measuring Well-being*. OECD. Retrieved January 7, 2023, from <https://doi.org/10.1787/9870c393-en>
- Sadafumi, T. (2017, July 27). *Japan's Coming Population Implosion*. Nippon.Com, from <https://www.nippon.com/en/currents/d00336/>
- Seki City Office Official Homepage. (2022). Retrieved August 16, 2022, from <https://www.city.seki.lg.jp.e.gs.hp.transer.com/0000017753.html>
- Trading Economics. (2021). *Japan General Government Gross Debt to GDP - 2022 Data—2023 Forecast*. Retrieved January 7, 2023, from <https://tradingeconomics.com/japan/government-debt-to-gdp>
- Tsuchiya, H. (2020, November 24). *East Asia's Looming Demographic Crisis*. Nippon.Com. <https://www.nippon.com/en/in-depth/d00639/>
- Kaminoho Regional Committee | Seki City Office Official Homepage. (2020). Retrieved August 17, 2022, from <https://www.city.seki.lg.jp.e.gs.hp.transer.com/0000004520.html>.
- 上之保ふれあいのまちづくり推進委員会 (2012) 『上之保地域振興計画』

付録

付録 A : 2022 年 7 月 6 日に行った事前調査の主な結果

1. 地域委員会へのインタビュー

- 最初の上之保地域振興計画(2012-2022)について
 - 高齢化社会は、振興計画で想定されていたイベントへの参加に必要な資源・人材に大きな影響を与えた。
 - 上之保地域振興計画 2012-2022 に対する最終評価報告書は存在しない。
 - 計画に対して過去に実施された評価もあるものの、現地域委員会メンバーはそのデータの所在を知らない。
 - 2012-2022 年に予定されていた活動のすべてが実施されたわけではないため、地域委員会はこの計画をもとに別の計画を立てることにした。
- 新上之保地域振興計画(2021-2025)について
 - 本計画では、上之保の住民の声を集める調査が実施された。
 - 地域委員会は散発的にイベントを開催しているものの、参加者はあまり多くない。コロナ感染症拡大下はこの状況はさらに悪化した。
- 上之保農家の概要と柚子の生産について
 - 現在の地域委員会は、ゆずの生産状況や農家の現状をよく知らない。
 - 現在の地域委員会は、主にゆず製品をイベントで展示・使用することを通してゆず生産者を支援している。
 - 現在の地域委員会は上之保ゆず株式会社について、ゆずの生産や農家に詳しく、上之保のゆず生産の発展のために活動する存在として認識している。

上之保ゆず株式会社へのインタビュー

- 上之保のゆず生産の概要
 - 合併以前には、上之保村はゆずの生産に補助金を出していたが、2005 年の関市との合併を機に、上之保への補助は打ち切られた。
 - 補助金がない分、生産者は生産量を増やさなければならないが、地域の消費能力には限界があるため、必要な量を売ることはできなかった。
 - ゆずの性質上、毎年の生産高はかなりの程度不規則であった。
 - ゆずの生産者数は 220 世帯から 102 世帯に減少した。
 - 地域委員会とゆず生産者との間の連携はない。
- 上之保ゆず株式会社について
 - この事業は、市からの出資を含む第三セクター方式により設立された。ゆず生産事業は、開始当初に多くの赤字を抱えた。
 - 東京の投資会社からの 500 万円の出資によって会社は存続し、生産者に払うことができた。
 - 会社はゆず祭りを開催し、マスコットキャラクター「ゆずりん」を生んだ。
 - フランスやカナダなど海外への進出を予定している。過去 10 年間に、韓国や中国からのコンタクトがあった。

付録 B : 2022 年 10 月 4~6 日に行った本調査のスケジュール

日	時間	活動	場所	移動手段
1	8:30~12:00	名古屋一上之保	栄バスターミナル	バス
	13:30~15:00	かみのほゆず株式会社 インタビュー	かみのほゆず株式会社	徒歩
	15:15~15:45	地域委員会インタビュー	地域委員会事務所	徒歩
	16:00~17:00	世帯訪問調査	地域委員会事務所の 近隣の世帯 (2 世帯)	徒歩
2	8:30~10:30	地域住民 グループインタビュー	地域の住宅	タクシー 徒歩
	11:00~12:00	農場見学	ゆず畑・水田・菜園	タクシー 徒歩
	14:00~15:30	アドベンチャーランド 代表へのインタビュー	アドベンチャーランド	タクシー 徒歩
	15:45~17:00	世帯訪問調査	アドベンチャーランド 近隣の世帯	タクシー 徒歩
3	8:30~11:30	世帯訪問調査	アドベンチャーランド 近隣の世帯	タクシー 徒歩
	13:00~14:00	上之保一関		タクシー
	14:00~16:00	NPO 法人ふうめらんへの インタビュー	関市中心街	
	17:00~19:30	関一名古屋	関バスターミナル	Bus

付録 C : 2022 年 10 月の現地調査で使用した質問リスト

※以下の質問リストは本調査の前に準備したものであり、本調査では半構造化インタビューを行ったため、質問リストの通りにインタビューを行ったわけではない。

対象者	質問
民間企業	<p>主な質問：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 御社の事業と上之保の将来について、どのような期待を持っていますか？ 2. 上之保の発展に貢献するためにどのようなことをされていますか？ 3. 他の企業、地域の人々、地域委員会の中で、御社の事業を最も支えているのは誰ですか？また、誰に事業の強力な支援者になってほしいと期待しますか？ 4. 行政や地域委員会からの支援に期待することは何ですか？ 5. 上之保で事業を展開する上でどのような課題やチャンスがあると思いますか？ 6. 上之保で事業を続ける理由は何ですか？ 7. 地域の人々が地域活性化にどの程度貢献できると思いますか？ <p>補足の質問：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行政はあなたの声にどの程度耳を傾けていると思いますか？
地域委員会 代表者	<p>主な質問：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上之保の発展を推進する上でのあなたの役割と責任はなんですか？ 2. 安心して暮らせるという点で、上之保の将来をどのようにお考えですか？ 3. 上之保の発展に期待することはなんですか？ 4. 上之保の将来についての地域の人々の期待について、どのようなことをご存知ですか？ 5. 委員会は上之保の人々の期待に応じていると思いますか？ 6. 上之保の活性化を推進する上で、最も役立つ資源は何だと思いますか？
地域住民	<p>主な質問：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に対してあなたが誇りに思うものは何ですか？ 2. あなたの住んでいる地域で、最も印象的なこと、興味深いことを3つ教えてください。その理由は何ですか？ 3. 住民や近隣の人々とはどんな交流をしていますか？ 4. 住民や近隣の人々との会話でどんなことを話題にしますか？ 5. 地域住民にとって主な関心事はどんなことでしょうか？ 6. あなたや近隣の人々は、地域委員会の活動に参加されていますか？ 7. ご自身や近隣の人々が、地域社会を組織することへの参加の度合いについてどう評価しますか？ 8. 地域のイベントに参加したいとどの程度思いますか？ 9. 上之保地域振興計画のための調査に回答したことがありますか？その際、どのように感じましたか？ 10. 上之保の課題は何だと思いますか？ 11. 上之保の将来についてどう思われますか？また、どんなことを期待しますか？ 12. 行政の支援に期待することは何ですか？

	<p>13. 行政の支援はどの程度効果的だと思いますか？</p> <p>14. 上之保地域振興計画があることをご存知ですか？その場合、知っていることについて教えてください。</p> <p>15. 上之保地域振興計画に関する資料をお持ちですか？計画はどの程度現実的だと思いますか？</p> <p>16. 行政や地域委員会はあなたの意見や上之保に対する希望に耳を傾けていると思いますか？</p> <p>17. あなたは上之保の発展にどの程度貢献していると思いますか？</p> <p>18. 上之保では差別が存在すると思いますか？</p> <p>19. あなたの夢は何ですか？</p> <p>補足の質問：</p> <p>1. 上之保カレンダーを知っていますか？それを好きな（または嫌いな）理由を教えてください。</p>
<p style="text-align: center;">地域委員会 代表者</p>	<p>主な質問：</p> <p>1. 上之保の発展を推進する上でのあなたの役割と責任はなんですか？</p> <p>2. 安心して暮らせるという点で、上之保の将来をどのようにお考えですか？</p> <p>3. 上之保の発展に期待することはなんですか？</p> <p>4. 上之保の将来についての地域の人々の期待について、どのようなことをご存知ですか？</p> <p>5. 委員会は上之保の人々の期待に応えていると思いますか？</p> <p>6. 上之保の活性化を推進する上で、最も役立つ資源は何だと思いますか？</p>
<p style="text-align: center;">地域住民</p>	<p>主な質問：</p> <p>1. 地域に対してあなたが誇りに思うものは何ですか？</p> <p>2. あなたの住んでいる地域で、最も印象的なこと、興味深いことを3つ教えてください。その理由は何ですか？</p> <p>3. 住民や近隣の人々とはどんな交流をしていますか？</p> <p>4. 住民や近隣の人々との会話でどんなことを話題にしますか？</p> <p>5. 地域住民にとって主な関心事はどんなことでしょうか？</p> <p>6. あなたや近隣の人々は、地域委員会の活動に参加されていますか？</p> <p>7. ご自身や近隣の人々が、地域社会を組織することへの参加の度合いについてどう評価しますか？</p> <p>8. 地域のイベントに参加したいとどの程度思いますか？</p> <p>9. 上之保地域振興計画のための調査に回答したことがありますか？その際、どのように感じましたか？</p> <p>10. 上之保の課題は何だと思いますか？</p> <p>11. 上之保の将来についてどう思われますか？また、どんなことを期待しますか？</p> <p>12. 行政の支援に期待することは何ですか？</p> <p>13. 行政の支援はどの程度効果的だと思いますか？</p> <p>14. 上之保地域振興計画があることをご存知ですか？その場合、知っていることについて教えてください。</p> <p>15. 上之保地域振興計画に関する資料をお持ちですか？計画はどの程度現実的だと思いますか？</p> <p>16. 行政や地域委員会はあなたの意見や上之保に対する希望に耳を傾けていると思いますか？</p> <p>17. あなたは上之保の発展にどの程度貢献していると思いますか？</p> <p>18. 上之保では差別が存在すると思いますか？</p>

	<p>19. あなたの夢は何ですか？</p> <p>補足の質問：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上之保カレンダーを知っていますか？それを好きな（または嫌いな）理由を教えてください。
<p>NPO法人 ぶうめらん</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上之保活性化活動におけるぶうめらんの役割と責任は何だと思えますか？ 2. 上之保の発展や将来に期待することは何ですか？その期待に応えるために上之保の人々は何をしていますか？ 3. 開発目標を達成するために、地域委員会、民間部門、地域住民が改善できることは何だと思えますか？ 4. 他の地域と比較して、上之保の開発計画の実施状況をどう思えますか？上之保と似た課題に直面している地域はどこですか？その地域では問題にどう取り組んでいるか知っていますか？
<p>現地観察</p>	<p>観察するポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上之保の公共サービスや生活必需サービスへのアクセスはどうなっているか（保健センター、学校、スポーツセンター、スーパー、コンビニエンスストア等） 2. 農業（特に収穫）において、地域の人々はどのように協力し合っているか？ 3. 地域住民は近隣の人々とどのように関係を構築・維持しているか？

Working Group 1

**Expectations of Local People about Local Development and Local Committee's
Activities in Kaminoho, Seki City, Gifu Prefecture**

Group Members:

Jiayu LI *

Kim ALLEN

Thi Hanh Dung CAO

Alvaro COLLAZOS

Advisors:

Isamu OKADA

* Group Leader

Table of Contents

1. Introduction
 - 1.1 Background
 - 1.2 Objectives and Research Questions
 - 1.3 Research Significance
 - 1.4 Research Methodology
 - 1.4.1 Research Site
 - 1.4.2 Data Collection
 - 1.4.3 Fieldwork
2. Aging and Depopulation as Questions in Rural Japan
 - 2.1 Aging Society
 - 2.2 Depopulation
 - 2.2.1 Japan's demographic challenge
 - 2.2.2 Factors of Japan's depopulation
 - 2.2.3 Consequences
 - 2.2.4 Japan's strengths
 - 2.3 People's expectation and participation
3. Findings
 - 3.1 Analysis of Kaminoho development
 - 3.2 Analysis of Kaminoho Local Committee activities
 - 3.3 Expectations of local people about Kaminoho development
 - 3.4 Expectations of local people about Local Committee activities
4. Discussion
5. Suggestion
- Acknowledgment
- Reference
- Appendix

1. Introduction

1.1 Background

Kaminoho district is in the Northeast of Seki City with 49.32 km², and 90% of the natural area is covered by forest. Kaminoho was incorporated into Seki City in 2005 because of the Heisei merger. Mountains surround the village of Kaminoho. According to the statistics of Seki city in June 2022, the population of Kaminoho is 1,414, with 49% of the population being male and 51% being female (Seki City Office Official Homepage, 2022)

Figure 1: Map of Seki city, including Kaminoho district



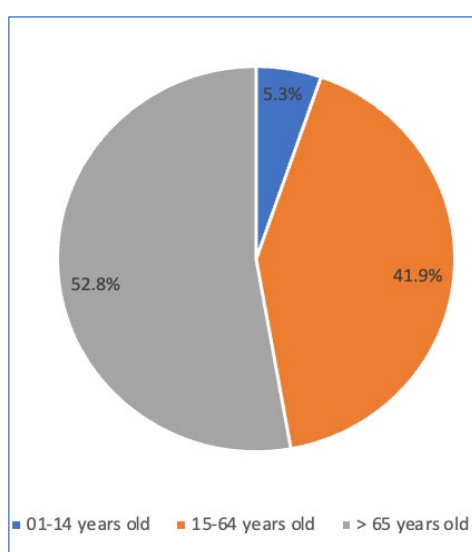
Source: <https://www.city.seki.lg.jp/0000002784.html>

Between 2012 and 2020, Kaminoho's population significantly decreased by 22.1%. Consequently, it has been the second-highest depopulation rate in Seki city (Seki City Office Official Homepage, 2022). The most challenging problem is the rapid increase in the elderly population and depopulation. As we can find in Figure 2, only 5.3% of people in Kaminoho are from 0 to 14 years old. To revitalize this region, the local government has prioritized two objectives: “creating the vitality in the Kaminoho area and being able to continue living in the Kaminoho areas with peace of mind” (Uenoho Regional Promotion Plan, 2012, p.1). Seki city government promotes the participatory community development approach to develop their area; to do so, they establish the Local Committee (LC) in each district. According to Seki city, LCs play an important role in their local development as a local development body in Seki city, aiming to help residents address their problems by themselves and make better effective community. Residents are free and encouraged to participate in the LC's

activities because these LCs serve local people's benefits, and they could decide how to use the annual budget granted by Seki city to solve their problems.

The LC organized several activities to encourage local participation. However, according to the results from the pre-survey in July 2022 in Kaminoho, few residents participated in these activities due to a high rate of the aging population and a dearth of young individuals. We will explain why so few people joined in local activities through the perspective of expectation. In this research, we shall examine the locals' expectations regarding their promotion plan/development activities and how they affect locals' collaboration and participation in committee activities.

Figure 2: The ratio of age group population in Kaminoho (June 2022)



Source: Calculated by the authors from the Statistics of Seki city in June 2022.

1.2 Objectives and Research questions

The main objective of this research is to identify the expectations of the local people of Kaminoho regarding its development plans and LC's activities. A pre-survey conducted in Kaminoho (see Appendix A) on the implementation of the Kaminoho Promotion Plan 2012 - 2022 identified that there is a lack of participation in community activities due to the aging population. Furthermore, the findings from the pre-survey found that the LC has not followed the Kaminoho Promotion Plan 2012 - 2022 hence, resulting in a lack of implementation and monitoring. There is a need for evaluation to improve stakeholders' engagement and participation in the community. The Kaminoho Promotion Plan 2021-2025 was developed with the consultation of the local people through a survey, which was distributed and analyzed by the LC with the support of NPO Vousmelan. Despite the LC's claims for local participation in the new Kaminoho Promotion Plan, the implementation status of the new plan remains unclear due to a lack of monitoring. In addition, the pre-survey identified the lack of coordination between the LC and members of the community and other stakeholders.

This research will focus on engaging all Kaminoho community stakeholders who participated in the development and implementation of the Kaminoho Promotion Plan to understand their perspectives and level of participation in implementing the plan. Significantly, the research will engage the LC and residents to identify the issues and challenges involved in implementing Kaminoho's Promotion Plans. With the pre-survey information and objectives in mind, this study raises the following research questions:

1. What are the expectations of local people about the Kaminoho Promotion Plan?
2. What are the expectations of local people about the Kaminoho Local Committee's activities?
3. What factors affect local people's participation in the planning and implementation of the Kaminoho Promotion Plan?

1.3 Research Significance

The findings from this research will identify the issues and factors that contribute towards effective community participation and inform the people and stakeholders of Kaminoho on how to work together in advancing Kaminoho's development effectively. This research will significantly inform LC on its approach to driving community participation, engagement and economic and development growth in Kaminoho. The findings from this research will support better planning and participation among stakeholders to address development needs at the community level.

1.4 Research Methodology

1.4.1 Research site

According to Facts about Gifu Prefecture (2013), Gifu prefecture is in the center of Japan with an area of 10,621 km². The population of Gifu prefecture is 2,080,773 in 2010, which accounts for 1.6% of the entire Japanese population and is the 17th most populous prefecture in Japan. 24.1% of the population in Gifu is people aged 65 and older, which is 1.1% higher than the national average rate of this age group.

Seki city is in the southern part of Gifu prefecture, with 473.2 km². The population of Seki city in 2020 is 87,266, while the population density is 193.3 people per km², much lower than the national average of 340.8 people per km².

Our research was conducted in Kaminoho, one of 12 areas in Seki city, which is in the northeast of Seki city. The population of Kaminoho is 1,414 (August 2022). There are several reasons for selecting Kaminoho as the research area. First, Kaminoho is considered one of the typical representative rural areas in Japan, which is facing a severe decline in population and an aging population. Within eight years, from 2012 to 2020, 22.1% of the population of Kaminoho decreased. Moreover, the number of people aged 75 and over is increasing. Because of this matter, the local authorities and local people want to create a comfortable life and revitalization for local people to stay in peace. Secondly, after the Heisei merger, Kaminoho is the first pioneer to establish its LC in Seki city to implement its development plan. Kaminoho completed its LC Formulation in 2016 and

before that, Kaminoho launched its 10-year promotion plan in the period 2012 - 2022. To adopt the situation of development plan implementation, LC revised its plan for the period 2021-2025. However, it seems not so many activities are implemented following its plan and local people have not participated much in it. Therefore, we would like to conduct research to know more about their situation.

1.4.2 Data collection

The field research is designed with a single case study fielding in-depth interviews with key stakeholders. The preliminary survey was conducted in Kaminoho on July 6th, 2022 to learn more about the current issues of Kaminoho, their potential and the challenges of the revitalization strategy. After analyzing the pre-survey results and findings, we conducted field research in Kaminoho on October 4th, 5th and 6th, 2022. The data was collected through semi-structured interviews, group interviews and field observation. On the other hand, the secondary data collection was done through reports, plans and other documents of the local committee of Kaminoho, Seki City and a non-profit organization (NPO) Vousmelan.

The research targeted four leading actors of Kaminoho's development: local people and private business companies, who are the main participants in development and promotion activities, an NPO Vousmelan, who has supported LC by consulting, training and especially supporting household survey to upgrade LC's Promotion Plan, and LC, who is the implementer of its local development plan. We studied the difference in expectations about Kaminoho development in general and people's expectation in specific. From that, we could understand how their expectation affects their behavior in collaboration and participation in community activities.

The interviews and data collection were designed in English and implemented through English-Japanese translation with the interpretation of a teaching assistant and team members who can speak Japanese.

1.4.3 Fieldwork

The research team comprising four students, with the assistance of a research assistant and the guidance of a research supervisor conducted individual and group interviews targeting individual residents, families, the Local Committee and other relevant stakeholders in Kaminoho. Field observation was done in two different locations, namely, the Yuzu Company production and farm sites and the Nature Land Kaminoho. Table 1 shows the total number of interview participants, indicating three males as key informants, including the President of Kaminoho Yuzu company, Chairman of LC, and a representative of NPO Vousmelan, one group interview with 14 female participants and 11 (six female, five male) participants that were recruited randomly (eight) or appointment (one). The age range of interviewees is between 50 to 89 years old.

Table 1: Summary information of fieldwork mission in Kaminoho

No	Activity	Interviewees	
		Female	Male
1	Three interviews with key informants	0	3
2	One group interview with Choir Group	14	0
3	Eight random household visits in Myogajima, Yukiai and Kawai areas; One appointed household visit in Toyaichi area	6	5
4	Field observation in Kaminoho Yuzu Company, Yuzu farm and Nature Land Kaminoho		

Table 2: Informants' list of household visits in Kaminoho

No	Name	Age		Region
		Female	Male	
01	Couple A	Around 75	Around 75	Yukiai
02	Ms. B	Around 55		Myogajima
03	Couple C	Around 65	Around 70	Toyaichi
04	Ms. D	Around 65		Kawai
05	Ms. E	Around 65		Kawai
06	Ms. F	89 years old		Kawai
07	Ms. G	53 years old		Myogajima
08	Ms. H	Around 65		Yukiai
09	Mr. I		Around 75	Myogajima
10	Mr. J		Around 75	Myogajima
11	Mr. K		Around 75	Kawai

The three key informants and a group interview with the Choir Group were arranged before the fieldwork started. Similarly, the field observation of the Kaminoho Yuzu Company and the Nature Land Kaminoho site was prearranged. As for the random household visits, the research team divided themselves into two groups and carried out house-to-house visits in four different locations. Most of the household interviews were done by the research team requesting consent by visiting informants at their house or on the road, except for one prearranged interview with a married couple. The survey was conducted over three days, with the first and final days partly involving travel from the university to the location and return. Most of the interviews and field observations were conducted on the second day. Despite the research team encountering weather challenges with rainfall, they were able to conduct and complete the interviews.

2. Aging and Depopulation as Questions in Rural Japan

2.1 Aging Society

Nowadays, an aging society is a worldwide phenomenon that will continue to impact all regions (Binsock et al., 2014), especially in some developed countries. By 2050, the world will have the same number of old and young, with two billion people aged 60 or older (Harper, 2014). Because of the low fertility rate, the

development of medical science, an increase in average life expectancy and other factors (Magnus, 2012). Nowadays, Japan has been a super-aging society in the world (Muramatsu and Akiyama, 2011). In Kaminoho, over 50 percent of local residents are elders. Most of the elders are facing transportation difficulties, lack of community connections and living alone. Hence, Kaminoho reflects a miniature of the aging society in Japan, which cannot be avoided and the urgent question is how to deal with such problems and reconsider infrastructure planning and community development activities to accommodate current needs, including those of an aging population. Ongoing efforts to improve policies and programs for longer, healthier lives might now be more productive as we communicate to local residents, LC who may be more aware of what is not working, what is at stake and what might be improved.

2.2 Depopulation

2.2.1 Japan's demographic challenge

Nowadays, in parallel to the aging society problem, Japan's fertility rate, which began to fall below the 1970s, barely exceeds 1.36 children per woman, one of the lowest rates in the world and far away from the demographic replacement rate, established at 2.1 children per woman (Tsuchiya, 2020). The combination between an aging society and fewer children inevitably leads to the contraction of the population. In fact, since 2011, the Japanese population has not stopped declining. Just in 2020, the population of Japan fell by almost 400,000 people and Japan's population is expected to go from around 126 million in 2020 to approximately 111 million in 2040 and about 88 million by 2065 (Sadafumi, 2017). In other words, in just over 40 years, Japan will lose more than 30% of its inhabitants, an unprecedented demographic contraction.

These types of demographic changes have important implications in all areas of the country, including, of course, the economy. An OECD report in 2016 has calculated that by 2050 Japan's working-age population will have decreased to 61.8% compared to the people it would have in the year 2000.

2.2.2 Factors of Japan's depopulation

What are the causes behind all these trends? How responsible is the society or the government? The Japanese labor market is probably one of the most family demotivating that exists worldwide. Japanese people must deal with extremely long working hours that often leave little time to consider whether to start a family. In addition, in the Japanese case, requesting medical leave or maternity or paternity leave is not very well seen and that can have professional consequences. Even though Japanese law recognizes paid maternity leave of 36 weeks, cultural barriers still hamper all intention of enjoying this privilege (Higuchi, 2022). Another social factor that affects birth rates is the increasingly clear tendency of the Japanese not to get into a relationship. More than 35% of the population lives alone (Arakawa, 2020).

2.2.3 Consequences

Forecasts made by the National Institute of Population and Social Security Research, an entity affiliated with the Ministry of Health, Labor and Welfare of Japan, estimate that approximately 896 Japanese cities and towns face disappearance by the year 2040 (D'Ambrogio, 2020) and between 400 to 500 schools were closed per year due to lack of children (Hayakawa, 2012).

2.2.4 Japan's strengths

Despite the significant challenges of an aging society and depopulation, Japan's other statistical numbers are still significantly good. For instance, Japan is still one of the 20 countries worldwide where households have the most income after paying taxes. According to an OECD report in 2020, with \$28,872 net, Japan is at the level of countries like Denmark or Finland, above the United Kingdom or New Zealand. Japan is also one of the top countries where, on average, families have more financial wealth once their debts have been discounted. Furthermore, Japan has the highest life expectancy, is one of the safest countries and at an educational level, is one of the best in the PISA index (OECD, 2020).

Although public debt reached an astonishing record of 265% of GDP in 2021 (Trading Economics, 2021), the Japanese government has a significant amount of financial assets too. As a result, the net debt is reduced to about 168.1% (Knoema, 2021). In addition, the main creditor of the government is the Bank of Japan (Bank of Japan, n.d.) which means that the cost of all that debt has already been spread among the Japanese people with less financial profitability and lower wages. In other words, Japan has no external debt, and all this debt is in the hands of the Japanese.

2.3 People's expectation and participation

As we can see, Japan has great challenges, and at the same time, they also have many strengths. This report seeks to analyze what the Japanese population expects about this context, how aware they are of their strengths and weaknesses, and how willing they are to participate in efforts to solve their challenges. We believe that the expectations collected in this report can help to appreciate the beneficiaries' side when thinking about future policies to face the upcoming great challenges of Japan in all its prefectures.

3. Findings

3.1 Analysis of the Kaminoho development

Through our interviews, we can identify that community relationship is harmonious. Through household visits, we could see that our interviewees live independently in their private houses. For instance, Ms. F and Couple A (one person with a disability) live without any attendance from their children. According to Couple

C and Ms. D, they are usually willing to help each other and keep their eyes on their neighbors¹. Therefore, together, they could save themselves from trouble.

When being asked about Kaminoho, most of the interviewees are energetic and they are non-stop loving Kaminoho. They were talking about Kaminoho with all their pride in the clean environment, nature and beautiful landscape. The interviewees are very open-minded to thinking about a leader for their development.

For the community's strengths, Kaminoho people have chances to join hands for their survival strategy and be able to take the initiative for their development based on their mutual interest. Although agriculture activities are reducing in Kaminoho, Yuzu farmers are trying to maintain their local crops, which shows outsiders how much they value their products. New business ideas could come up by utilizing the available resources of Yuzu farms and Nature Land, such as providing a field study tour for students to educate them on the value of agriculture production and to experience life in rural areas. At the same time, when most of the interviewees complained about lacking basic service in Kaminoho, providing service to serve local's needs could be considered an economic opportunity in Kaminoho.

Although most of the interviewees hope Kaminoho will be better, they have acknowledged that they are facing many serious issues in their region. Due to rapid depopulation, some businesses in Kaminoho are shutting down, and job opportunities are narrowed. There are very few younger people and the birth rate is very low there.

From these above weaknesses, some areas in Kaminoho district may disappear in the coming time. LC's chairman shared that two out of six areas will soon become empty neighborhoods. Because of lacking healthcare facilities and healthcare workers, plus the population in Kaminoho is becoming older, people's mental and physical may be unhealthy. Moreover, only a few younger are living in Kaminoho and the labor force to maintain and develop Kaminoho is a big question for the government and local citizens.

3.2 Analysis of Kaminoho Local Committee (LC) activities

From the perspective of the LC activities, most interviewees in the Choir Group are pleased to participate in their group activities because such participation benefits their health and those activities could ease people's loneliness. Other interviewees only join big community events such as the local festival. Only Ms. E does not participate in LC activities because she thought those activities were for elderly people only. Another strong point of LC is that its existence is well-known by all interviewees and those interviewees want to raise their voices to LC. With these advantages, LC could organize and adjust activities based on people's needs within their framework.

Not all activities can meet residents' needs and interests, so they do not participate in LC's activities. Another important factor that cannot be ignored is that some elders do not have driving licenses, and they must

¹ When asked about how people around could access groceries shop, Ms. D said, "I can drive my car to go to groceries shop; sometimes, I take my neighbors with me to groceries shop."

rely on the availability of buses, so they cannot go to the LC easily. According to interviewees, their priority concern is improving public services, and they think LC could work on it. However, LC's authority is not working on it. Additionally, at least two interviewees shared that they were unclear about what LC is implementing activities. We can say people in Kaminoho get confused between activities by LC and Seki City.² That could contribute to explaining why the development plan in Kaminoho is not known well in Kaminoho.

For the above-discussed matters, LC's activities may not be as relevant as local people expect, which may lead to a lack of participation of local people in LC's activities. According to Seki City's approach to community development, citizens are the leading players, and they encourage participatory community development. Therefore, lacking local participation and collaboration may threaten their development plan, and they may not achieve their targets which aim to revitalize people's life with pride in the rich nature and interaction of people.

3.3 Expectations of local people about Kaminoho development

Most interviewees showed concern about the insufficiency of basic infrastructures in Kaminoho, which play a vital role in their comfortable life, such as clinics, health care services and groceries shops.³ Accessing these essential services is difficult for those who do not have cars and have to rely on public transportation.

The interviews conducted in our research led us to identify a typical pattern in the discourse of Kaminoho citizens regarding their expectations. When it comes to the development of this district, people's expectations are primarily negative at the beginning of the interview; continuous, rapid depopulation and the aging society are some of the most common concerns. However, if the meetings continued, most of the interviewees also showed hope for the future based on their community solidarity⁴, the vitality of most elders⁵ and their love for Kaminoho⁶.

Hope and positive expectancies can also be supported by our observation of the current conditions of Kaminoho during our fieldwork. Although this district looks less developed than Japan's big cities, it still

² When asked about their opinion about LC activities, interviewees like Ms. F, and Mr. J talked about some activities conducted by Seki city.

³ For example, a Choir Group member stated, "I think the most inconvenient thing is about going shopping as an elder, almost 5 km from some houses of Kaminoho areas where only elders live. There are no schools or hospitals nearby too."

⁴ When asked about the strengths of Kaminoho, a member of the Choir Group answered, "[the strengths are] the bonds of Kaminoho people, their solidarity and union."

⁵ When asked about the typical conversations between neighbors, Ms. F said, "Usual topic is aging. Everyone looks concerned about that. However, I feel energetic, I can still take the bus, and I believe my neighbors are energetic too."

⁶ During one interview, Ms. G said, "I love the natural environment in Kaminoho, so I will not leave here." In another interview, Mr. I said, "Kaminoho is a beautiful place, the river is beautiful too, and the air is clean."

covers essential public utilities like electricity, gas and water supply in all the visited places. We could also appreciate reasonably maintained roads, functional private spaces (restaurants, houses) and public areas like the LC's office. In addition, no threats—crime or social disruptions—were perceived during the pre-survey and fieldwork. Thus, we believe this favorable environment can support positive expectancies despite the lack of big markets, hospitals or schools.

3.4 Expectations of local people about Local Community Activities

Our interviews also led us to identify another pattern in the interviewees' speeches. Most people showed awareness of the negative impact of the pandemic on the activities promoted by LC. That is, they know it was because of the emergency measures that these activities had to stop abruptly.⁷ In general, they lament this situation because they recognize that LC's activities generated gathering spaces where citizens could have a good time chatting with friends, learning new things and staying active, which they consider crucial to keep feeling healthy.⁸ Therefore, although many interviewees confused the activities promoted by the LC with those carried out by Seki City, in general, they fervently hoped that such activities will resume soon.

Our observation during the pre-survey and fieldwork can also support this pattern. The research team had the opportunity to witness a session of the Choir group (organized by LC). In this regard, we could testify to the existence of a warm yet powerful environment despite being composed entirely of older women.

4. Discussion

In the present investigation, four main factors have been identified in Kaminoho that could positively and negatively affect the development plan of Kaminoho as follows.

- **Mobility:** Public transportation is not always available for all citizens, especially for older people. Many have stated that this drastically reduces the opportunities to participate in any event. In fact, in most cases, they have expressed the desire not only to have more means to travel to LC activities but also to be able to go to the hospital in case of an emergency or to transport the week's grocery buying.
- **Neighborhood:** Despite the mobility limitations described above, residents with cars and driver's licenses often help those who do not have such means for participating in LC's activities, going to the hospital or the market. This fact is reinforced by the community's strong willingness to help others

⁷ For example, Mr. J said, "[LC activities] stopped because of the pandemic. Elders were not allowed to go outside. Before the pandemic, everyone came to events, had a good time and smooth communication, but everything changed".

⁸ One member of the Choir Group said, "Our singing activity brings us vitality and hope. Singing can help even in getting better from an illness. We have over 70 years, but we can still push, move, and keep active. The chorus means we get together and make something together, make good friendships; together we have a nice time; it's also a good opportunity to talk".

perceived by most of our interviewees.⁹

- **Different expectations:** Despite some hope for the future of the community and the desire for the reopening of LC activities perceived in the interviews, it is also evident that the promotion plan is not matching the primary expectation of most of the interviewees. Their main concerns are improving necessities such as transportation, hospital and grocery rather than the development of Kaminoho. This point is especially critical for the image of the LC since, even though, due to budget limitations, they cannot solve the biggest problems in the district, this does not prevent the community from expecting them to do so. By not meeting the community's expectations, the LC's image and the potential reception of its activities can be seriously affected.
- **Confusion:** We have detected different cases of confusion among the community regarding both the concept of the LC and its activities.¹⁰
- **Industry Development:** Depopulation and limited business lead to low investment in public infrastructure and transportation means. Local people are proud of their landscape, sterile environment with beautiful mountains and hot springs. However, these advantages lack uniqueness because they are very common in rural areas in Japan. As we have known, Kouchi Prefecture is famous for Yuzu products, such as Yuzu juice, Yuzu shampoo and lotion. Therefore, it is very challenging for Kaminoho Yuzu Company to be competitive with Yuzu products from other regions. If Kaminoho is able to manufacture specialized products, for instance, it may invite tourists to participate in the process of Yuzu manufacturing. On the other hand, Yuzu manufacturing can be connected to camping in Kaminoho. As we have known from our fieldwork that there is a camping site in Kaminoho, unfortunately, due to COVID-19, few people came in these three years. If it is possible, camping with Yuzu manufacture will be a new charming point in Kaminoho.

5. Suggestion

Instead of people having to access basic services actively, the Kaminoho District Government with LC could consider working with suppliers to bring services close to local people.

⁹ During one interview, Mr. K said, "People in Kaminoho used to help each other in agriculture tasks or to go shopping together. I don't usually go to have drinks with my neighbors, but I know people get in contact frequently and help each other when needed".

¹⁰ For example, Ms. F confused the LC authority with the Seki city government. In another case, Ms. E thought LC's activities were for older people, not for others. Finally, Ms. D does not join LC activities because she prefers talking directly with government officials to sharing with LC if she has a proposal.

The interviewees agreed that social events and festivals in Kaminoho make them feel happy and healthy. Indeed, participation in social activities could positively affect health status, life quality and emotional well-being (Ghenta, M et al., 2022). Therefore, LC must keep organizing social activities and get more involvement from residents as organizers so that they can have more chances to do what they expect within the LC frameworks. Besides that, the Choir Group is one of the most famous and active groups in Kaminoho LC. However, this group's participants are limited to older women. Hence, mixed-gender activities could be one of the options to provide the same opportunities and friendly places for them to learn and discuss across the gender. These two solutions aim to create a more comfortable life for Kaminoho residents and enhance their ownership in local development activities because they are the main and essential actors in revitalizing their area.

The LC, with the support of NPO Vousmelan, could collaborate with the Universities for some voluntary youth campaigns so that they could support local development activities which require the younger power and spirit, such as crop harvesting and cleaning footpaths. At the same time, they could contribute to activating older people's energy through experience-sharing and culture-exchange activities.

Acknowledgment

We would like to extend our sincere thanks to Seki City's government officers Kaminoho Local Committee for allowing us to study in their areas. Thanks, should also go to Mr. Kitamura of NPO Vousmelan, who strongly supported and coordinated our fieldwork in Kaminoho. Special thanks to the local people in Kaminoho, who spent time providing valuable information in our interviews and warmly welcomed us during the field trip.

Furthermore, we would like to express our most profound appreciation to Domestic Field Work (DFW) Committee, which gives us a big chance to study through field research. Special thanks to Professor OKADA Isamu, who gave guidance, encouragement and interpretation sometimes, which helped us a lot to conduct fieldwork and complete our report. We would be remiss in not mentioning the Teaching Assistant in DFW, Ms. Nini. Thank you so much for your great effort to support interpreting during the DFW course.

Reference

Arakawa K. (2020, January 13). *A Community of Connections: Looking Forward to the Solo Society*.

Nippon.Com. Retrieved December 5, 2022, from <https://www.nippon.com/en/japan-topics/g00768/a-community-of-connections-looking-forward-to-the-solo-society.html>

Bank of Japan. (n.d.). *Outline of Financial System Stability: 日本銀行 Bank of Japan*. Bank of Japan.

Retrieved January 7, 2023, from <https://www.boj.or.jp/en/finsys/outline/index.htm>

- Binstock, R. H., George, L. K., Cutler, S. J., Hendricks, J., & Schulz, J. H. (Eds.). (2011). *Handbook of aging and the social sciences*. Elsevier.
- D'Ambrogio, E. (2020). *Japan's ageing society*. Retrieved December 8, 2022, from [https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/BRIE/2020/659419/EPRS_BRI\(2020\)659419_EN.pdf](https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/BRIE/2020/659419/EPRS_BRI(2020)659419_EN.pdf)
- Facts about Gifu Prefecture—岐阜県公式ホームページ（広報課）. (2013). Retrieved August 17, 2022, from <https://www.pref.gifu.lg.jp/site/english/209.html>
- Ghența, M., Matei, A., Mladen-Macovei, L., & Bobârnat, E. S. (2022). Factors Associated with the Participation of Older Adults in Cultural and Sports Activities. *International journal of environmental research and public health*, 19(10), 6244. <https://doi.org/10.3390/ijerph19106244>
- Guetterman, T. C., Babchuk, W. A., Howell Smith, M. C., & Stevens, J. (2019). Contemporary approaches to mixed methods—grounded theory research: A field-based analysis. *Journal of Mixed Methods Research*, 13(2), 179-195
- Harper, S. (2014). Economic and social implications of aging societies. *Science*, 346(6209), 587-591.
- Knoema. (2021). *Japan General government net debt (% of GDP), 1980-2021—Knoema.com*. Knoema. Retrieved January 7, 2023, from <https://knoema.com/atlas/Japan/topics/Economy/Financial-Sector-General-Government-finance/General-government-net-debt-percent-of-GDP?origin=jp.knoema.com>
- Magnus, G. (2012). *The age of aging: How demographics are changing the global economy and our world*. John Wiley & Sons.
- Hayakawa, N. (2012, May 7). *Declining Birthrate Changing Japan's Schools*. Nippon.Com. <https://www.nippon.com/en/column/100018/>
- Higuchi, Y. (2022). *Japan Labor Issues Volume 6 Number 36, January-February, 2022*. 64.
- Muramatsu, N., & Akiyama, H. (2011). Japan: super-aging society preparing for the future. *The Gerontologist*, 51(4), 425-432.
- OECD. (2016). *OECD Territorial Reviews: Japan 2016*. OECD. <https://doi.org/10.1787/9789264250543-en>
- OECD. (2020). *How's Life? 2020: Measuring Well-being*. OECD. Retrieved January 7, 2023, from <https://doi.org/10.1787/9870c393-en>
- Sadafumi, T. (2017, July 27). *Japan's Coming Population Implosion*. Nippon.Com. <https://www.nippon.com/en/currents/d00336/>
- Seki City Office Official Homepage. (2022). Retrieved August 16, 2022, from <https://www.city.seki.lg.jp.e.gs.hp.transer.com/0000017753.html>
- Trading Economics. (2021). *Japan General Government Gross Debt to GDP - 2022 Data—2023 Forecast*. Retrieved January 7, 2023, from <https://tradingeconomics.com/japan/government-debt-to-gdp>

Tsuchiya, H. (2020, November 24). *East Asia's Looming Demographic Crisis*. Nippon.Com.
<https://www.nippon.com/en/in-depth/d00639/>

Uenoho Regional Committee | Seki City Office Official Homepage. (2020). Retrieved August 17, 2022,
from <https://www.city.seki.lg.jp.e.gs.hp.transer.com/0000004520.html>.

Uenoho Regional Promotion Plan, 2012

Appendix

Appendix A: Main results of pre-survey on July 6th, 2022

1. Local committee's interview

- **About the original Kaminoho Promotion Plan (2012-2022)**

- The ageing society considerably affected the logistics needed for participation in events contemplated in the Promotion Plan.
- There is no final evaluation report of the Kaminoho Promotion Plan 2012-2022.
- Although there are some previous evaluations of this plan, actual local committee members don't know where the data is.
- Because not all the activities contemplated in 2012-2022 were implemented, the local committee decided to revise this plan and establish another one.

- **About the new Kaminoho Promotion Plan (2021-2025)**

- The plan gathered Kaminoho local people's voices through a survey.
- Although the local committee organizes some sporadic events, not so many people assist. This situation worsened with COVID-19.

- **About Kaminoho farmers' overview and Yuzu production**

- The existing local committee doesn't know much about Yuzu production or the status of its farmers.
- They support Yuzu producers, mainly showing and using Yuzu-based products in some events.
- They recognize the Kaminoho Yuzu company as the entity that knows more about Yuzu production, farmers, and the one who conducts the activities aiming for the development of yuzu production in Kaminoho.

2. Kaminoho Yuzu Company's interview

- **Overview of Yuzu production in Kaminoho**

- Before the merger, the Seki local city government started subsidizing Yuzu production. However, the subsidies for Kaminoho stopped when this village merged with Seki city in 2005.
- Without subsidies, producers had to increase their production to compensate for lower revenue. However, they couldn't sell as expected because the new amount surpassed the capacity of consumption in the area.
- Yuzu production is significantly irregular each year due to the nature of the fruit.
- The number of Yuzu producers decreased from 220 to 102 households.
- There is no coordination between the local committee and Yuzu producers.

- **About Kaminoho Yuzu Company**

- The business was established under the Third sector model, which involves an investment from the city government. The Yuzu production business carried many deficits in its beginning.
- With an investment of 5-million-yen from a Fund capital in Tokyo, the company could survive and pay the producers.
- They organized Yuzu Matsuri and created its well-known mascot, Yuzurin.
- They plan to expand overseas like France and Canada. In 10 years, they had received visits from Korea and China.

Appendix B: Schedule for field research on October 4th, 5th, and 6th 2022

Day	Time	Activity	Place	Transportation
1	8:30 – 12:00	Travel: Nagoya - Kaminoho	Sakae Bus Terminal	Bus
	13:30 – 15:00	Interview Kaminoho Yuzu Company and Observing Yuzu factory	Kaminoho Yuzu Company	Walking
	15:15 – 15:45	Interview Local Committee	Local Committee office	Walking
	16:00 - 17:00	Household visit	Two households nearby the local committee office	Walking
2	8:30 – 10:30	Household visit	Nearby accommodation place	Taxi (van) Walking
	11:00 - 12:00	Group interview	Local Committee office	Taxi (van) Walking
	14:00 – 15:30	Interview Adventure Landowner	Adventure Land or any available venue	Taxi (van) Walking
	15:45 – 17:00	Household visit	One household nearby the Adventure Land	Taxi (van) Walking
3	8:30 – 11:30	Household visit	House by house, fields	Taxi (van) Walking
	13:00 – 14:00	Travel from Kaminoho to Seki city		Taxi (van)
	14:00 – 16:00	Interview NPOVousmelan	Seki city	
	17:00 – 19:30	Travel: Kaminoho Nagoya	Sakae Bus Terminal	Bus

Appendix C: The questionnaire for field research October 4th, 5th, and 6th 2022

Main actors	Question
Private companies	<p>Main questions:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. What are your expectations about your business and Kaminoho's future? 2. What are you doing to contribute to Kaminoho's development? 3. Among other companies, local people, and the local committee, who supports your business the most? Who do you expect to be your leading supporter? 4. What do you expect to receive from the government's support or local committee support? 5. What are your challenges and opportunities to run your business in Kaminoho? 6. Why do you keep doing business in Kaminoho? 7. To what extent do you think the local people can contribute to its district revitalization? <p>Sub-questions:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. How much do you think the local government hears your voice?

Main actors	Question
Local Committee honorable representatives	<p>Main questions:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. What is your role and responsibility to promote Kaminoho's development? 2. What can you see as the future of Kaminoho in terms of ensuring living with ease? 3. What are your expectations of Kaminoho's development? 4. What do you know about local people's expectations about Kaminoho's future? 5. Do you think you are satisfying people's expectations? 6. What do you think is the most promising resource that can promote the revitalization of Kaminoho?
Local people	<p>Main questions:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. What is your pride about your community? 2. Could you please tell us the three most impressive/interesting things in your community? Why do you think so? 3. How do you interact with villagers or your neighbors? 4. What topics do you usually discuss when you meet your villagers or your neighbors? 5. What are local people's priorities or main concerns now? 6. Do you or your neighbors participate in community activities? 7. How do you evaluate your and your neighbor's participation in organizing community activities? 8. How motivated do you feel about participating in local events? 9. Have you filled out the survey for the Kaminoho Promotion Plan? What were your feelings when doing so? 10. What are the challenges of Kaminoho? 11. What do you see future of Kaminoho? And what do you expect about the future of Kaminoho? 12. What do you expect from government support? 13. How effective do you think the government's support is? 14. Do you know there is a Promotion Plan for Kaminoho? If so, what do you know about it? 15. Do you have the document about the Kaminoho Promotion Plan? How realistic do you think it is? 16. Do you feel the authorities are hearing your voice and what you want for Kaminoho? 17. How much do you contribute to Kaminoho's development? 18. Do you think there is discrimination in Kaminoho? 19. What is your dream? <p>Sub-questions:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. What do you know about the Kaminoho Calendar? Why do you like (or dislike) it?
Vousmelan	<ol style="list-style-type: none"> 1. What is the role and responsibility of Vousmelan in Kaminoho revitalization activities? 2. What are your expectations about Kaminoho development and future? How are they doing to reach their expectation? 3. What do you think the local committee, private sectors, and local people could improve to reach their development target? 4. What do you think about the implementation of Kaminoho development plan compared with another district? Which other districts face same issue as Kaminoho? Do you know how they solve their problems?
Field observation	<p>Observation points</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. How is the accessibility of public and necessity services in Kaminoho? (Health care center, school, sport center, supermarket, convenience store, etc.) 2. How do local people support each other on their farms (in case of crop harvesting)? 3. How do local people keep relationships with their neighbors?

Note: the list of questions was prepared prior to the fieldwork and not fully used during the interviews because of the semi-structured nature and conditions in situ.

ワーキンググループ 2

地域開発における女性のリーダーシップ：
旭ヶ丘地域委員会と安桜地域委員会における女性の参加に関する比較調査

グループメンバー

金澤恵佑*

ウムナ・ルスフィー

ジュディテ・シガウク

ラジア・ジョヤ

指導教員：

伊東早苗

近藤菜月

* グループリーダー

目次

1. はじめに
 - 1.1 研究の背景
 - 1.2 研究の目的と課題設定
 - 1.3 研究の意義
 - 1.4 研究の方法
2. 予備調査の結果
3. 本調査の結果
 - 3.1 地域委員会役員の男女比
 - 3.2 地域委員会における役員の選出
 - 3.3 地域委員会における女性の参加が多い／少ない要因
 - 3.4 実践を共有するための地域委員会間の交流
 - 3.5 女性のリーダーシップの発揮が地域社会や地域委員会にもたらすメリット
 - 3.5.1 方針
 - 3.5.2 スムーズな作業環境
 - 3.5.3 女性の視点
 - 3.6 地域委員会活動における関市役所と NPO の役割
 - 3.7 インタビューの参加者によって指摘された問題点
 - 3.7.1 若者の減少
 - 3.7.2 コミュニケーション
 - 3.7.3 活動の周知
 - 3.7.4 トップダウン的な気質
4. 本研究の限界
5. 本研究の結論
- 参考文献
- 付録

1.はじめに

日本では伝統的に女性によるリーダーシップの発揮が男性に比べて少なく、Usui ら（2003）によれば、ジェンダーによって確立された女性と家族および地域組織との強いつながりが、日本社会における女性のリーダーシップの発揮の障壁となってきた。近年の日本では、東京都の小池百合子知事をはじめとして指導者の役割を担う女性が増えてきてはいるものの、女性が指導者になることについては依然として文化的・社会的な障壁が存在する。

そこで、本研究では岐阜県関市の安桜・旭ヶ丘地区の地域委員会を対象に、女性のリーダーシップの比較調査を行った。関市の地域委員会は主に高齢者（定年退職者）によって構成されており、100万円から300万円の予算をもとに地域のニーズに応える活動（地域に影響を与える問題の特定とその解決のための現実的な解決策の提案）を推進する活動をしている。また、関市役所から3名の市職員を地域支援職員として地域委員会に派遣し、9つの地域委員会に技術的・人的な支援を行っている。

1.1 研究の背景

岐阜県関市は刃物の産地として有名な場所である。関市の包丁、カミソリ、ノミ、医療用メスなどの国内シェアは1位を誇る。2022年の統計によると、関市の人口は86,027人で、そのうち男性が42,227人、女性が43,800人である。また人口のうち、65歳以上が30.9%、15～64歳が57.3%、0～14歳が11.8%となっている。関市は上之保、武儀、田原、武芸川、板取、下有知、洞戸、富野、富岡、倉知、西部、安桜、桜ヶ丘、旭ヶ丘、瀬尻の15地域に分かれており、このうち最も人口が多いのは安桜地域の14,000人であり、最も少ないのは富野の1,700人で、今回の調査で着目した旭ヶ丘の人口は7,500人である。

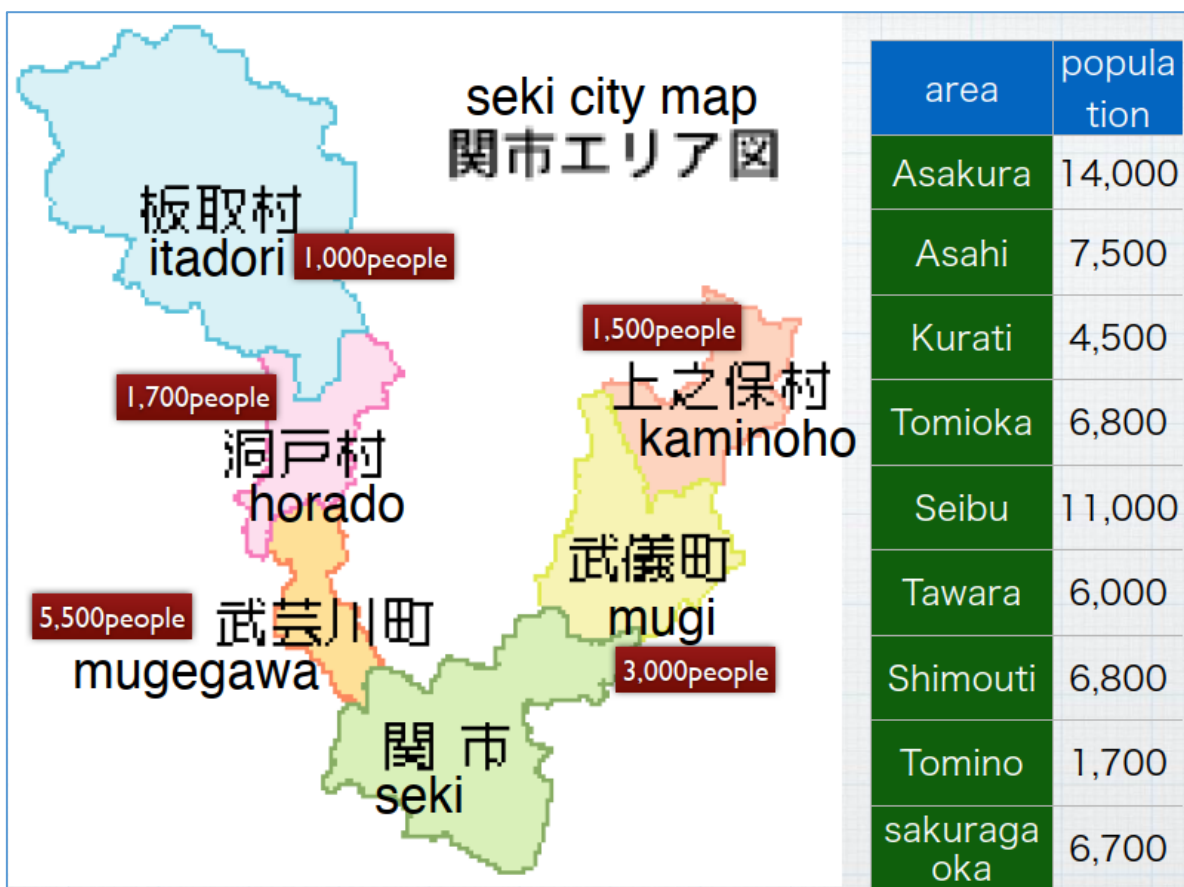
近年、関市は日本の他の地域と同様に、人口の高齢化と、地方自治への女性の参加度の低さに悩まされている。高齢者人口割合の増加の大きな要因のひとつは、若年人口の減少であり、これは進学や就労の機会がより多いと思われる大きな都市への移動によって引き起こされている。この状況を打開するため、「ふうめらん」のような地域の非営利団体（NPO）が、自治体・学校・企業・地域委員会と連携し、参加型のまちづくりを推進する相乗効果を生み出すための取り組みを行っている。これまで、若者の地域への愛着を育み、若者が残りたくなるような街づくりを目指して様々な施策が行われてきた。2021年にNPO法人ふうめらんが行った重要な活動としては、高校と企業の連携、企業による地域社会への貢献、地域委員会や若者の活動への支援、市民主体の問題解決、そして人材育成などが挙げられる。

地域委員会は、参加型地域づくりを推進する中心的主体の一つである。地域委員会は、委員会に地域の人を雇用する事務局機能を有し、会計や税金の扱いも担当する。委員会は（多くの場合定年退職した）高齢者で構成されることが多い。100万円から300万円の年間資金によって、地域委員会は地域のニーズに応える活動の推進や、若者や女性の参加度向上を含む、地域の課題の特定に努めてきた。また関市役所は、各地域に少なくとも3名の市職員を派遣して、技術的・人的

支援を行うことで地域委員会を支えている。地域委員会は地域住民の貢献と協力を獲得してきたものの、地域社会とのコミュニケーション、活動の推進、地域住民の参加など、いくつかの課題を未だ抱えている。

先述の通り関市には9つの地域委員会が置かれているが、それらの地域委員会の会長の多くは男性である。そこで今回の調査では、安桜と旭ヶ丘を調査対象とし、女性の地域委員会への参画のインセンティブを探ることとした。なぜなら旭ヶ丘は、女性の参加とリーダーシップが発揮された地域委員会の好例と言えるからである。旭ヶ丘地域委員会の現会長は、以前に PTA (Parent Teacher Association) の会長や自治会連合会長を務めた経験のある女性である。また、旭ヶ丘地域委員会の男女比はほぼ 1:1 であり、これは安桜や他の地域委員会と比べても特徴的な点である。本研究では、旭ヶ丘と安桜の比較調査を行い、旭ヶ丘の地域委員会への女性の積極的な参加に影響する要因や理由を探ることを目的とした。また、より多くの女性を参加させるために、どのような戦略や実践が採用されているかについても調査する。旭ヶ丘と、女性の参加が特に多いわけではない安桜を比較することで、他の地域委員会が女性の参加とリーダーシップを促進し、ジェンダーバランスのとれた地域づくりを進めるために、旭ヶ丘の経験をどう活かすことができるかを明らかにする。

図 1：関市の地図



出典：NPO 法人ぶうめらん

1.2 研究の目的と課題設定

本研究では、安桜と旭ヶ丘を調査対象地として、地域委員会への女性の参加に対するインセンティブを見出し、女性の参加向上を目指す他の地域委員会に対してベストプラクティスとして提示することを目指す。予備調査の結果に基づいて、旭ヶ丘地域委員会と安桜地域委員会の比較調査を行うために以下の3つのリサーチクエスチョンを設定した。

- 旭ヶ丘地域委員会と安桜地域委員会において、女性によるリーダーシップの発揮にはどのような特徴がみられるか？
- 安桜地域委員会と比較して、旭ヶ丘地域委員会で特に女性がリーダーシップを發揮している要因は何なのか？
- 旭ヶ丘地域委員会において女性がリーダーシップを發揮するためにどのような方策がとられており、それは安桜地域委員会をはじめとする関市内の他の地域委員会に対してどのように適用できるのか？

1.3 研究の意義

本調査は意思決定過程への女性の参加向上という点で、旭ヶ丘地域委員会の実践（ベストプラクティス）から学ぶ効果的なモデルとして活用することができる。安桜など他の近隣地域では、それぞれの地域委員会の特に重要な決定を下す政策的なレベルにおける女性の参加を増やすために、旭ヶ丘地域委員会と同様の戦略を採用することができるだろう。本調査はさらに、旭ヶ丘地域委員会の現状に関する分析結果を提示することで、地域社会、自治体職員、NPO 職員とのコミュニケーションや関係性をさらに改善・強化することに寄与することが期待される。

1.4 研究の方法

まず2022年7月6日に予備調査を行い、旭ヶ丘において旭ヶ丘地域委員会、NPO 法人ふうめらん、関市役所市民協働課職員を対象に半構造化インタビューを行った。次に、10月5日～7日の3日間で比較調査（旭ヶ丘：女性のリーダーシップの發揮が多い地域委員会、安桜：女性のリーダーシップの發揮が比較的少ないと思われる地域委員会）を実施した。具体的には安桜地域委員会、旭ヶ丘地域委員会、NPO 法人ふうめらんを対象に半構造化インタビュー（通訳による日本語でのインタビュー）を行うとともに、目的別サンプリングによって選んだ旭ヶ丘地区と安桜地区の地域住民を集めてフォーカスグループ・ディスカッションを行った。

表 1：実施した調査の詳細

No.	調査内容	参加者
1	<ul style="list-style-type: none"> 旭ヶ丘地域委員会のメンバーを対象にしたグループインタビュー 	会長および女性役員 5 名
2	<ul style="list-style-type: none"> 旭ヶ丘の地域住民とのフォーカスグループ・ディスカッション。 モルディブ、アフガニスタン、モザンビークの料理や衣装を紹介する国際交流イベントの開催。 	男性 3 名、女性 3 名
3	<ul style="list-style-type: none"> 安桜地域委員会メンバーを対象にしたグループインタビュー 	会長および男性役員 2 名
4	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人ふうめらんへのインタビュー 	ふうめらん代表
5	<ul style="list-style-type: none"> 安桜地域委員会メンバーとのフォーカスグループ・ディスカッション 	男性 3 名、女性 3 名
6	<ul style="list-style-type: none"> 関市役所市民協働課への取材 	担当の男性スタッフ 2 名

2. 予備調査の結果

予備調査は、旭ヶ丘地域委員会、NPO 法人ふうめらん、関市役所職員を対象に実施した。予備調査における半構造化インタビューは、旭ヶ丘地域委員会には会長以外でリーダーシップを発揮している女性は少ないという仮説に基づいて行った。しかし、旭ヶ丘地域委員会では複数の女性が地域委員会を主導しており、この仮説は誤りだった。そこでリサーチクエスチョンを修正し、関市において女性が指導的役割を担っている地域委員会（旭ヶ丘）と、女性が指導的役割をさほど担っていないと思われる地域委員会（安桜）を比較調査することにした。

予備調査を通して、旭ヶ丘地域委員会では女性が指導的立場に就くことが多く、関市内の他の地域委員会と比べてもこれは特異な地域であることがわかった。現会長も PTA 会長を務めた経験のある女性であり、旭ヶ丘では意思決定レベルに女性が参加していることがある種の規範になっている。また、女性委員は委員会内の役割分担で男性委員からジェンダーによる差別を受けた経験もなく、女性が地域委員会に参加したり指導的な役職に立候補したりする際には、男性から支持されたり奨励されたりしていることがわかった。

NPO 法人ふうめらんへのインタビューでは、地域住民が地域委員会に意見を述べる機会やプラットフォームが少ないことがわかった。地域住民はまちづくりについて意見がある時は、主に関市役所の市民協働課や NPO 法人ふうめらんのような団体に話を聞いてもらっていた。また、関市の課題として若者がまちづくりに参加していないことが挙げられた。そのため、ふうめらんが支

援する関市まちづくり市民会議で、地域委員会と地域住民との対話を増やすためのいくつかの提案がなされたという。

関市役所職員へのインタビューでは、日本で女性がリーダーシップを発揮できない要因として、文化的な背景や世代間の違いが挙げられた。さらに生活や仕事で男性がリーダーシップをとってきたため、男性が地域委員会のメンバーになったあともリーダーシップを継続することが自然な流れになっているという指摘があった。また、旭ヶ丘については女性が参加しやすい特異な地域であり、女性がより多くのネットワークと知識を持ちながら指導的役割を担っているとも説明された。

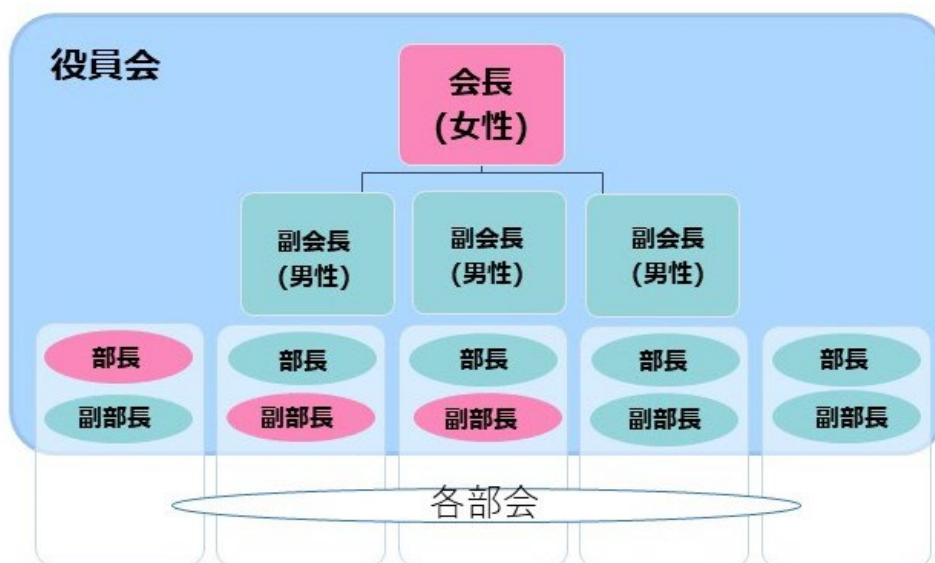
3. 本調査の結果

本調査の結果は以下の通りである。

3.1 地域委員会役員の男女比

両地域委員会とも半数近くが女性だが、女性がどのポジションに配置されているかには違いが見受けられた。また、旭ヶ丘地区は役員会（常任委員会＝執行部）に出席する役員として各部会の部会長と副部会長までが含まれる一方、安桜地区の役員には部会長のみが含まれており、女性の副部会長は役員には含まれていないと思われる。つまり、各地域委員会で副部会長の意思決定への参加機会が異なっており、女性副部会長が役員会に参加しない場合は、それだけ意思決定の場で声を上げる機会が少なくなるのではないかと推察される。

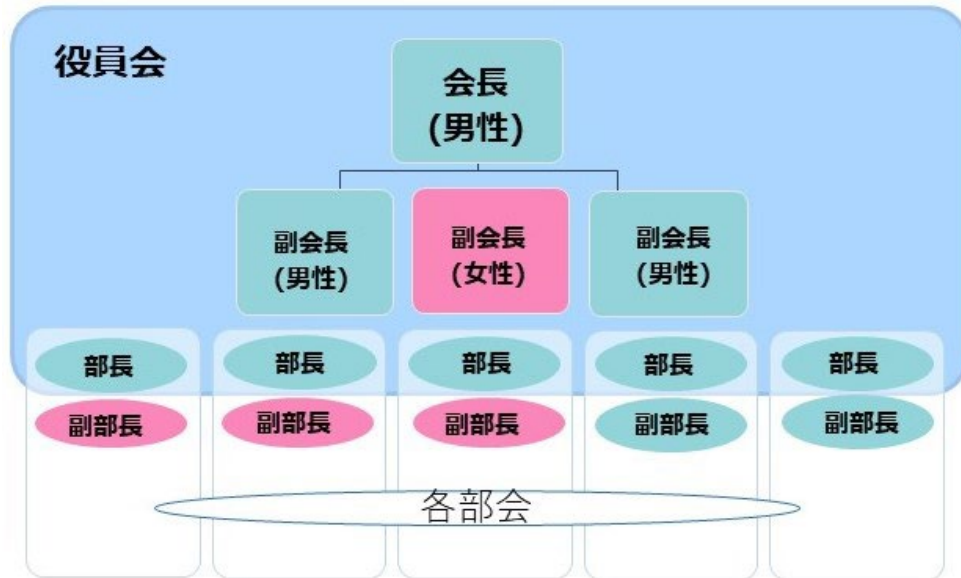
図3：旭ヶ丘地域委員会における地域委員会役員の男女比



注：旭ヶ丘地域委員会における指導的地位の男女分布

出典：地域委員会の構成に基づき、筆者らが作成

図4：安桜地域委員会における地域委員会役員の男女比



注：安桜地域委員会における指導的地位の男女分布

出典：地域委員会の構成に基づき、筆者らが作成

3.2 地域委員会における会長の選出

旭ヶ丘地域委員会の現会長は女性であり、PTA 会長の経験者である。PTA 会長には女性が就任することが多く、地域委員会の会長も PTA を経験した女性が就任することが違和感なく受け入れられている。旭ヶ丘地域委員会に関わる地元住民には関市外出身者も多く、会長候補を探す際には、役員選考委員会が果たす役割が大きい。一方、安桜では自治会の役員経験者が地域委員会の会長になることが多かった。安桜の自治会役員は男性が中心であるため、それが地域委員会にも影響しているようであった。代々、地域委員会のメンバーが地元出身者で構成されている場合、地元で自治会等の役職を担ってきた男性の中から会長が選出されることが多いようだ。

3.3 地域委員会における女性の参加が多い／少ない要因

地域委員会における女性の参加が多い／少ない要因はいくつかある。安桜と比較して地域委員会で役員を占める女性の割合が高い旭ヶ丘では、女性が PTA 会長になることが多いため、地域委員会の役員を決める際にも多くの場合女性が選出されている。また、役員に選出される女性の家族（夫、子ども、両親）も女性が家事を疎かにしない限りはサポートしてくれる。男性の地域委員も女性が役員になることを支持しており、女性も男性と同じようにリーダーシップを発揮できると感じている。ただ、旭ヶ丘地域委員会では女性であることを理由にリーダーを選んでいるわけではないという。現会長の女性は会長にふさわしいから選ばれたのであり、女性であることは違和感なく受け入れられている。そこには「男だから」や「女だから」という意識はないとのことであった。

一方、安桜では男性が長年にわたって自治会の会長を務めているため、女性が自治会など経験を十分に積んだ上で地域委員会の会長候補になることがあまりない。安桜地域委員会の会長によれば、自分たちも男性だけで仕事をしたいわけではないものの、家庭での責任を果たしながら地域委員会の役員もやりたいという女性がこれまでいなかった、とのことである。女性は通常、家事や家庭での責任を優先する傾向があり、たとえ知識や能力が高くても、わざわざ地域の役職まで担いたいと思う女性たちが少ないと推測される。また、年配の男性がリーダーシップを発揮している場合は、女性はそれを尊重し、自らイニシアチブを取りたがらない傾向があるようである。

以上のように、女性が地域委員会でリーダーシップを発揮できない要因としては、家庭を優先していることや、農業などに残存する男性中心の社会の影響で女性がイニシアチブを取りたがらないことなどが挙げられる。しかし、地域開発への女性の参加を促進するにはこれらの問題を解決することが必要である。

今後は世代交代や社会的背景の変化に伴って、リーダーシップを発揮できる若い女性が増えることが予想される。そのため、今後は地域活動にいかにしてより多くの若い世代を取り込むかが課題である。

3.4 実践を共有するための地域委員会間の交流

概して、関市の地域委員会間はあまり交流がなく、お互いの活動について知らないことが多いようである。関市の地域委員会では、経験や活動内容を共有するために地域委員会理事会の年次会議や年2回の勉強会（地域の自慢大会）が開催されているが、女性のリーダーシップの問題について議論されたことはない。

そのため、旭ヶ丘の女性会長他女性役員たちは、その特異性を自覚しておらず、自身をロール・モデルとして認識していなかった。しかし、関市役所の市民協働課の担当者らは、彼女らにロール・モデルとしての役割を期待している。

昨今は、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、今まで以上に情報交換の機会が減少している。しかし、新型コロナウイルス感染症の終息後、旭ヶ丘地域委員会が「女性の活躍」を「地元自慢」として示し、その経験を広く共有することが期待される。

3.5 女性によるリーダーシップの発揮が地域社会や地域委員会にもたらすメリット

男女ともに、女性が指導的立場に就くことには多くの利点があると回答していた。女性が指導的立場に就くことで、地域委員会は政策と実践の両面において、女性の視点で気づく問題や課題に焦点を当てることができる。また、男女が協力し合って働ける環境づくりにも役立つと思われる。地域の課題を女性の視点からどのように解決していくかを考えることは、より生活に根ざしたものであり、男性とは異なる生活者の視点からの提案になる可能性が高い。インタビューの回答をまとめると、具体的には以下ようになる。

3.5.1 方針

女性が指導的立場に就けば、その地域の女性や子供が抱える問題により焦点を当てた政策を展開することができる。

3.5.2 スムーズな作業環境

一般に、女性の参加が進むと、より協調的・調和的な作業環境が生まれるといわれている。男性だけで判断し、業務を遂行する環境だと、競争や対立が生じやすい。

3.5.3 女性の視点

女性が指導的立場に就くと地域委員会の活動に生活者の視点をより一層取り入れることができる。これらの視点は、職場で多くの時間を費やしてきた男性には思いつかない、より日常生活に根差した発想を生む傾向が強い。

3.6 地域委員会活動における関市役所とNPOの役割

NPO 法人ふうめらんと関市役所は、地域委員会間で活動内容を共有する場を作るために連絡を取り合うなど、地域委員会の活動や地域社会との交流を促進する上で重要な役割を担っている。加えて、女性の地域委員会への参加、若者の地域活動への参加、子どもの活動に焦点を当てた5カ年計画の策定、まちづくり市民会議の運営なども支援している。

3.7 インタビューの参加者によって指摘された問題点

上記の知見に加えて、インタビューの参加者は女性の指導的役割の獲得に直接的・間接的に影響を及ぼすであろう重要な問題をいくつか指摘していた。具体的には、地域委員会（特に役員レベル）における若者の少なさ、地域委員会と地域住民とのコミュニケーションのあり方、地域委員会の存在と活動についての周知、トップダウン的な気質などである。これらの課題は旭ヶ丘と安桜だけでなく、関市全体の課題と思われる。

3.7.1 若者の減少

インタビューの参加者からは地域社会の活動にもっと若い人たち（特に若い女性）が参加するよう促すべきだという意見があった。地域委員会は自治会やPTA等の団体を通じてメンバーを集めるだけでなく、SNS等を通じて若者の参加を呼びかけることが重要だと思われる。そうすることで、熱心で優秀な若者が地域委員会の活動に参加できるようになる。また、活動的で若い女性を地域委員会に参加させることで、男性役員が徐々に代替わりする際に、彼女たちが地域委員会を担っていくための経験を積ませることができる。

3.7.2 コミュニケーション

地域委員会のメンバーからは、新しい住民の参加を促すために、対面で話す機会や懇親会を増やすなど、コミュニケーションの方法を改善することも提案された。

3.7.3 活動の周知

安桜における調査では、地域委員会の存在とその活動内容について全く知らない地域住民がいた。しかし、そのような地域住民でも過去に地域委員会が主催したイベントには参加していた。地域委員会がイベントについて発信し、地域住民はイベント内容について知った上で参加しているが、地域委員会自体の目的や組織・構成については知らないままである。そのため、SNS 等を利用した広報を強化すべきだという意見もあった。

3.7.4 トップダウン的な気質

地域委員会は地域行政機関の末端組織としての位置づけが強く、その結果、地域住民一人ひとりの関心に基づいた活動を下から立ち上げるボトムアップの姿勢が希薄になりがちである。調査者らの母国では、「参加型コミュニティ開発」が普及しており、住民を集めた参加型ワークショップを通じて草の根の声を吸い上げ、コミュニティ開発の実践に生かす試みがなされている。それと比較すると、関市の地域委員会の場合は、住民一人ひとりの関わりが薄い印象を受ける。

4. 本研究の限界

本調査における限界の一つは言語の壁であった。調査者らは言語の違いから、参加者とコミュニケーションをとりながら正確な情報を得ることが難しかった。さらに、本調査は時間的な制約があったため、大規模な標本調査とは異なり、ごく少数の関係者から聞き取った情報を考察したにすぎない。そのため、調査結果の妥当性と信頼性にはおのずと限界があることを断っておきたい。

5. 本研究の結論

冒頭に示したリサーチクエスチョンを踏まえると、本研究の結論は以下のようにまとめられる。第一に、旭ヶ丘地域委員会において女性が果たす指導的役割の現状としては、旭ヶ丘の女性はPTA 等の地域活動の経験が豊富であり、家族や男性の地域委員から支援を受けながら一般市民の目線に立ったリーダーシップを発揮している。一方、安桜地域委員会では女性委員よりも男性委員の方がやや多い傾向にあり、役員や指導的立場に就いている女性はおらず、福祉活動部に占める女性の割合は50%以上だった。

安桜地域委員会と比較した際に、旭ヶ丘地域委員会で女性がリーダーシップを発揮できる要因はいくつかあり、それらは個人的・社会的・文化的なものであった。女性がリーダーシップを発

揮するためには、まず女性が自信を持つことが最も重要な要素である。また、多くの時間を必要とする社会活動に参加しながら家事や育児をこなす能力も、女性がリーダーシップを発揮する上で重要な要素であった。さらに、女性が高い地位に就くことを阻む文化的・社会的な障壁については、地方自治体や地域委員会の側がその障壁をなくす取り組みを行う必要がある。一方で、PTA等の活動を通じ、女性が地域社会にネットワークをもつことは、彼女たちが地域の活動に積極的に参加し、リーダーシップを発揮することにつながりやすい。地域委員会、特に役員を選考委員会は、女性が管理的な役割を担うことを奨励し、また女性の家族にも役職に就くことを理解してもらうための支援をする必要がある。

旭ヶ丘地域委員会における女性のリーダーシップの発揮のベストプラクティスと、安桜や関市内の他の地域委員会への応用可能性については、他の地域組織（PTA や子ども会など、女性が活躍する機会が多い組織）と協力することや、他の地域委員会と活動内容を共有することが挙げられる。行政や NPO は地域委員会に対して、女性がリーダーシップを発揮して地域委員会の意思決定プロセスに参加することを支援することができる。地域委員会では、例えばまちづくり市民会議政策提言発表会のように、事業を営む女性や起業した女性など、地域で活躍する女性を地域委員会の活動に巻き込む仕組みを強化することができるだろう。

参考文献

Usui, C., Rose, S., & Kageyama, R. (2003). WOMEN, INSTITUTIONS, AND LEADERSHIP IN JAPAN. *Asian Perspective*, 27(3), 85–123. <http://www.jstor.org/stable/42704422>

付録

付録 A：写真で振り返るフィールドワークの様子

写真 1: 旭ヶ丘地域委員会の方々とのディスカッション (左)

写真 2: 旭ヶ丘の地域住民の方々とのグループディスカッション (右)



写真 3: 安桜地域委員会の方々とのミーティング (左)

写真 4: 関市役所職員との成果共有・意見交換会 (右)



写真 5: 関市役所での報告会



付録 B：旭ヶ丘・安桜地域での国内実地研修のための質問リスト

【旭ヶ丘地域委員会役員への質問】

1. 地域委員会役員における女性の人数と役職について教えてください。
2. 男性主導の地域委員会から女性主導の地域委員会への転換はどのようにして進んだか教えてください。
3. 他の地域と比べて、旭ヶ丘地域委員会に女性参加者が多い理由は何だと思われますか？
4. 旭ヶ丘地域委員会の経験や学びから、関市の他の地域において地域委員会への女性の参加を増やすためにはどうしたらよいと思いますか？
5. 10年計画の中では、旭ヶ丘地域において女性が政策的レベルの役職に就くための、（女性向けの）能力開発訓練やプログラムを用意していますか？
6. 旭ヶ丘地域委員会では、よい実践を他の地域委員会と共有するために、互いの知見を交換するような仕組み（例：ワークショップ、討論会）を企画する予定はありますか？
7. PTAは、地域委員会への女性の積極的な参加を促進するための戦略的パートナーとして機能していますか？
8. 地域委員会を主導する際に、会長が直面する課題はありますか？
9. 特に高齢者を対象とした福祉のために、地域委員会が実施している、あるいは地域委員会が連携して実施している具体的な活動はありますか？
10. 2019年に実施したアンケートでは、旭ヶ丘地域の主な課題の一つとして、単身あるいは高齢者夫婦にとって魅力的な活動が乏しいことが挙げられていました。その後、状況に変化はありましたか？
11. 女性がリーダーシップを発揮すること／女性の地域委員会への参加が高まることは、地域委員会や地域社会にとってどのような利点があるのでしょうか？
12. 特に女の子や女性を対象とした取り組みとしてはどんなことをしてきましたか？
13. より多くの女性に参加してもらうことに関して、他の地域委員会にどのようなアドバイスがありますか？
14. 女性の参加という点で、関市の他の地域と比較して、旭ヶ丘の地域委員会が特徴的な点はなんですか？

【旭ヶ丘地域住民への質問】

1. 旭ヶ丘地域委員会は、女性のリーダーが率いていることをご存知ですか？
2. 女性が地域委員会を率いることで、他の女性も後押しされると思いますか？
3. 女性のリーダーがいることは地域社会にとって何を意味すると思いますか？特に女性にとってどのような意味があるのでしょうか？
4. 旭ヶ丘地域委員会における女性の参加は、他の地域よりも高いと思いますか？
5. 旭ヶ丘地域委員会で女性の参加を増やす必要性はあると思いますか？

6. 他の地域は、女性の地域委員会への参加を増やすために、旭ヶ丘地域から何を学ぶことができると思いますか？
7. 旭ヶ丘地域において、女性に関連することで最も重要な課題はなんですか？
8. 上の問題について、地域委員会にどのように対処してほしいですか？
9. 3年前、地域で不審者を見たという人がいましたが、今でも同じような状況を経験しますか？女性の安全面に影響があると思いますか？
10. 旭ヶ丘の地域委員会活動をどのように評価しますか？
11. 女性がリーダーシップを発揮すること／女性の地域委員会への参加が高まることは、地域委員会や地域社会にとってどのような利点があるのでしょうか？
12. 特に女の子や女性を対象とした取り組みとして地域委員会はどんなことをしてきましたか？具体的に教えてください。
13. 旭ヶ丘地域のリーダーシップには満足していますか？

【安桜地域委員会役員への質問】

1. 地域委員会役員における女性の人数と役職について教えてください。
2. 安桜地域委員会の活動への女性の参加はどの程度ですか？低い（または多い）理由は何だと思われませんか？
3. 安桜地域委員会の経験や学びから、関市の他の地域において地域委員会への女性の参加を増やすためにはどうしたらよいと思いますか？
4. 10年計画の中では、旭ヶ丘地域において女性が政策的レベルの役職に就くための、（女性向けの）能力開発訓練やプログラムを用意していますか？
5. 安桜地域委員会では、よい実践を他の地域委員会と共有するために、互いの知見を交換するような仕組み（例：ワークショップ、討論会）を企画する予定はありますか？
6. PTAは、地域委員会への女性の積極的な参加を促進するための戦略的パートナーとして機能していますか？
7. 特に高齢者を対象とした福祉のために、地域委員会が実施している、あるいは地域委員会が連携して実施している具体的な活動はありますか？
8. 女性がリーダーシップを発揮すること／女性の地域委員会への参加が高まることは、地域委員会や地域社会にとってどのような利点があるのでしょうか？
9. 特に女の子や女性を対象とした取り組みとしてはどんなことをしてきましたか？
10. 地域委員会への女性の参加に関して、他の地域委員会にどのようなアドバイスがありますか？

【安桜地域住民への質問】

1. 女性が地域委員会を率いることで、他の女性も後押しされると思いますか？
2. 安桜地域委員会における女性の参加は、他の地域よりも高いと思いますか？「はい」の場合、関市の他の地域にとって参考になる点を教えてください。「いいえ」の場合、女性の参加を改善するために何ができると思いますか？
3. 旭ヶ丘地域委員会の会長が女性であることをご存知ですか？
4. 他の地域は、女性の地域委員会への参加を増やすために、旭ヶ丘地域から何を学ぶことができると思いますか？
5. 安桜地域において、女性に関連することで最も重要な課題はなんですか？
6. 現在直面する問題がある場合、地域委員会にどのように対処してほしいですか？
7. 安桜の地域委員会活動をどのように評価しますか？
8. 女性がリーダーシップを発揮すること／女性の地域委員会への参加が高まることは、地域委員会や地域社会にとってどのような利点があるのでしょうか？
9. 特に女の子や女性を対象とした取り組みとして地域委員会は何のようなことをしてきましたか？具体的に教えてください。
10. 安桜地域のリーダーシップには満足していますか？

【NPO 法人ぶうめらん職員への質問】

1. 地域委員会（役員）への女性の参画が進むと、地域社会全体への良い影響があると思いますか？
2. 旭ヶ丘の地域委員会会長が女性になったことで、男性が会長を務めていた頃と比べてどのような変化がありましたか？
3. 他の地域（安桜を含む）は、旭ヶ丘地域委員会からどのように学べば、より多くの女性の参加を促すことができると思いますか？
4. 女性に関して、地域委員会がまだ取り組んでいない問題で、取り組んでほしいと思うことは何ですか？
5. 地域委員会の現在の実施体制や方法に関して、変わってほしいことはありますか？例えば、公式な要望受付の仕組みを作る、など。
6. 地域委員会の活動を拡大するために、ぶうめらんはどのような支援を強化できるのでしょうか？
7. 地域の懸念事項を報告するための持続的で機能的な制度を確立するために、PTA とぶうめらんが連携することは可能だと思いますか？
8. 旭ヶ丘地域委員会の会長が女性になったことで、リーダーシップについての女性の意識は変わったと思いますか？
9. 女性が主導する地域委員会との連携で、これまでに達成した大きな成果はなんでしたか？そしてそれは将来の連携の可能性をどのように広げましたか？

10. 旭ヶ丘地域委員会長の取り組みで、安桜地域委員会で実施すると良い結果につながりそうなものはありますか？
11. 地域委員会の活動への女性の参加を促進するために、NPOや地域の他団体はどのような支援ができると思いますか？

Working Group 2

**Women in Leadership Roles of Community Development:
A Comparative Analysis of Women in Leadership Roles of Asahigaoka Local
Committee and Asakura Local Committee**

Group Members:

Keisuke KANAZAWA*

Judite SIGAUQUE

Razia JOYA

Umna LUTHFEE

Advisors:

Sanae ITO

Natsuki KONDO

* Group Leader

Table of Contents

1. Introduction

1.1 Research Background

1.2 Research Objective and Research Questions

1.3 Significance of Research

1.4 Methodology

2. Preliminary Research

3. Research Findings

3.1 Gender ratio of Local Committees

3.2 Selection of Local Committee heads

3.3 Factors for high/low participation of women in Local Committees

3.4 Exchange mechanisms among Local Committees to share experiences

3.5 Benefits of women's position in the leadership of the Local Committees to the local community and committee

3.5.1 Policy

3.5.2 Smooth work environment

3.5.3 Woman's perspective

3.6 Roles of Seki City Hall and NPOs in Local Committee activities

3.7 Issues raised by interview participants

3.7.1 Fewer young people

3.7.2 Communication

3.7.3 Awareness

3.7.4 Top-down approach

4. Research Limitations

5. Final Analysis and Conclusion

Reference

Appendix

1. Introduction

In Japan, women have traditionally played a smaller role in leadership positions compared to men and Kageyama et al. (2003) concluded that the strong connection between women and the family and community institutions, established by the traditional gender-based division of labor, imposes barriers to women's aspiration to build non-familiar careers and subsequent limit to the access of leadership channels in Japanese society. However, in recent years, there has been a push to increase the representation of women in leadership positions in Japan. For example, the current governor of Tokyo, Yuriko Koike, is the first woman to hold this position.¹ There are also several women in senior leadership roles at major Japanese companies, such as Fumiko Hayashi, who serves as CEO of retailer Daiei, and Mariko Iwatani, who is the president of video game company Koei Tecmo.

There have been efforts to promote gender diversity in leadership positions in Japan. The government has set targets for listed companies to increase the proportion of women on their boards to at least 9% by 2020 and to at least 15% by 2030.² In addition, some companies have implemented diversity policies and initiatives to support the advancement of women into leadership roles.

However, cultural and societal barriers continue to hinder the advancement of women into leadership positions in Japan. For example, women may face discrimination or be passed over for promotion in favour of men and traditional gender roles may discourage women from pursuing leadership positions at micro level such as Community organizations or at macro level such as giant Companies or governmental positions. The present report results from research conducted in Seki City, targeting Asakura and Asahigaoka communities, where the local committees are one of the main actors in promoting participatory community development. The local committee has a secretariate function that hires local people in the committee and is also responsible for the accounting and taxation. It is usually made up of an elderly (mostly retired) population. With an annual fund that varies between 1 and 3,000,000 yen, the local committees work to promote activities that respond to local needs (identification of problems that affect the community and finding practical solutions to solve them). The municipality office also supports the local committees by dispatching 3 city officials to provide technical and human resources support to the nine Local Committees, out of which eight are led by men, with exception of Asahigaoka.

¹Osumi, M., Osaki, T. (2017, August 8). "*A Year On Gov. Yuriko Koike has more Plans to Reform the Capital*". The Japan's Time. URL <https://www.japantimes.co.jp/>

²Hori, K. (2020, June 26). "*Japan Gov't to push back 30%target for women in leadership positions by up to 10 years*". The Mainichi: Japan's Daily Since 1922. URL <https://mainichi.jp/english/articles/20200626/p2a/00m/0fp/014000c>

1.1 Research Background

Seki city located in Gifu prefecture is famous for its cutlery (Hamono). It has the largest domestic market share for kitchen knives, razors, chisels and medical scalpels in Japan. According to the Statistics Bureau of Japan in 2022, the Seki city population was 86,027 of which 42,227 were male and 43,800 were female. Of the whole population, 30.9% are 65+ years old, 57.3% are 15-64 years old and 11.8% are 0-14 years old.

Currently, Seki city like other parts of Japan is suffering from the phenomenon of population ageing and low participation of women in power. One of the major factors that have contributed to the growth of the old population is the reduction of the young population, caused by the phenomenon of emigration to other cities, preferably large cities, which are considered to have more opportunities for studies as well as work.

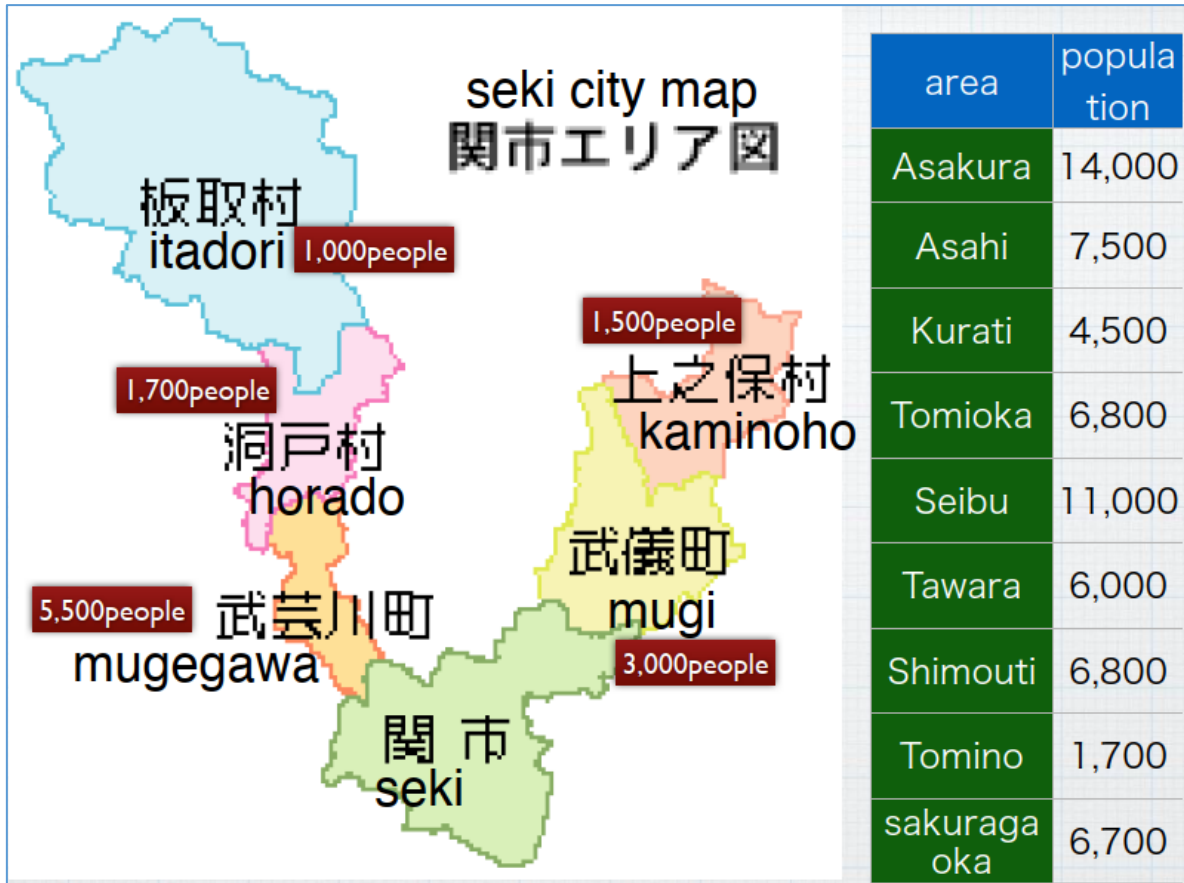
To reverse this situation, local non-profit organizations such as Vousmelan, in connection with local government, schools, businesses and local committees, have been working to create synergies that promote participatory community development as one of the ways to respond to this challenge. They have taken several measures to improve the situation by fostering a love for their hometown to encourage young people to remain in the city. Collaboration between high schools and companies, contribution by companies to the local society, approaches to support local committees and youth activity, citizen-centred problem-solving and human resource development are the important activities conducted by Vousmelan in 2021.

The local committees are one of the main actors in promoting participatory community development. The local committee has a secretariate function that hires local people in the committee and is also responsible for the accounting and taxation. It is usually made up of an elderly (mostly retired) population. With an annual fund that varies between 1 and 3,000,000 yen, the local committee has worked to promote activities that respond to local needs (identification of problems that affect the community including engagement of youth and women. The municipality office also supports the local committees by dispatching at least 3 city officials to each area to provide technical and human support.

There are nine local committees active in Seki city. Many local committee presidents are men. In this research, Asakura and Asahigaoka were the target places for the research on finding out incentives for women's participation in local committees.

Asahigaoka presents a good example of women's participation and leadership in the local committee. The chairperson of this local committee is a woman who previously served as the head of the PTA and the president of the Seki City Federation. In addition, the male-female ratio of the local committee in the Asahigaoka is almost 1:1, which is very unique compared to Asakura and other local committees. This research would do a comparison study of Asahigaoka and Asakura and explore the efficient factors and reasons for the active participation of the women in the Asahigaoka local committee as well as which strategies and actions they have taken to involve more women. By comparing Asahigaoka with Asakura (with low participation of women) the research will identify incentives on how other local committees could utilize the experience of Asahigaoka in order to encourage women's participation and leadership for gender-balanced community development.

Figure 1: Seki City Map



Source: Non-Profit Organization Vousmelan,

1.2 Research objective and Research questions

The objective of the research is to find incentives/factors for women in leadership roles in Asahigaoka Local Committee and to provide a comparative analysis for the lack of women in leadership roles of Asakura Local Committee.

Based on the objectives and preliminary research findings, the main three research questions identified to conduct the comparative analysis of local committees in Asahigaoka and Asakura areas were:

- What is the status of women in leadership roles in local committees of the Asahigaoka and Asakura areas?
- What factors contribute to women's leadership roles in Asahigaoka Local Committee compared to Asakura Local Committee?
- What are the best practices of Asahigaoka Local Committee for strengthening women's leadership roles and participation in the local committee and how can those be applied to Asakura and other local committees in Seki City?

1.3 Significance of research

This research can be used as an effective model to learn the best practices of the Asahigaoka Local Committee in increasing the participation of women at decision-making levels in community development by local committees in other areas of Seki City such as Asakura. By adopting similar strategies identified in the research implemented by the Asahigaoka Local Committee can help make a significant impact on strengthening women's role in community development benefitting the whole community. Furthermore, with the analysis provided of the current working situation of the Asahigaoka Local Committee, the research can also help Asakura and other areas to strengthen the communication and relationship with the local community, Seki city officers and non-profit organization Vousmelan with the local committees.

1.4 Methodology

One-day preliminary research was conducted on July 6, 2022, in the Asahigaoka area based on structured interviews with Asahigaoka Local committee, Non-Profit Organization-Vousmelan, and Seki City Hall Cooperation Division officers. A Three-day final research was conducted from October 5 -7 based on a comparative case study approach (Asahigaoka Area- Local Committee with women leadership roles and Asakura Area- Local Committee with no women leadership roles). Purposeful sampling was done for the semi-structured interviews (in Japanese was translated by teaching assistant) with Asakura Local Committee, Asahigaoka Local Committee, Non-Profit Organization Vousmelan and focus group discussions with community members of Asahigaoka and Asakura. The number of people and the interview details are shown below:

Table 1: Domestic Fieldwork Detailed Interview Schedule

No. Activity	Description	Participants
1	<ul style="list-style-type: none">Group interview Asahigaoka Local Committee members.	Head of the committee and five female members
2	<ul style="list-style-type: none">Focus group discussion with Asahigaoka Local Community members.Hold an international exchange event in which some foods and costumes from Maldives, Afghanistan, and Mozambique were introduced.	Three male and three female
3	<ul style="list-style-type: none">Group interview with the Asakura Local Committee members	Head of the committee and two male members
4	<ul style="list-style-type: none">Interview with NPO Vousmelan	Vousmelan representative

5	<ul style="list-style-type: none"> • Focus group discussion with Asakura Local Committee members 	Three male and three female
6	<ul style="list-style-type: none"> • Interview and discussion with Citizen Cooperative Division of Seki City Office. 	Two male staff in charge

2. Preliminary Research Findings

The preliminary research was conducted with Asahigaoka Local Committee, the Non-Profit Organization Vousmelan and Seki City municipal officers. The structured interview questions were based on the assumption that there are few (or no) women in leadership roles in Asahigaoka Local Committee. However, the assumption was proven wrong since Asahigaoka Local Committee had women leading the local committee. Hence, the research question was revised to conduct a comparative analysis between a local committee with women leadership roles (Asahigaoka) and a local committee with no women leadership roles (Asakura) in Seki City.

Furthermore, some important findings from the interview conducted with the Asahigaoka Local Committee were that more women hold leadership positions in the local committee, which is unique, compared to other local committees of the Seki City area. The current chairperson is also a woman, who has served as the head of the Parent Teacher Association (PTA). It is seen as a norm that women leaders are common in decision-making levels in the Asahigaoka area and female members have not experienced gender discrimination in assigning roles within the committee by the male members. The male population of the Asahigaoka area was generally expressed as supportive and encouraging women to participate in the local committee and apply for leadership roles.

The interview with Non-Profit Organization Vousmelan informed that community members have few opportunities or platforms to express their opinions to local committees. Mainly their opinions were recognized by the Citizens' Collaboration Division and NPOs like Vousmelan. In addition, one of the main issues Seki City faced was the lack of youth participation in community development. A recommendation to increase dialogues between local committees and community members was given as roundtable talks.

The interview with Seki City municipal officers revealed some of the reasons for the lack of women leadership roles in Japan as being embedded in the culture, the difference in generations and that men have been taking responsibilities and leadership roles in work life or jobs, it was natural for men to become members of local committees and continue the roles in community development associations. The members described Asahigaoka as a unique area for women's participation and that women have more networking and knowledge to be in leading positions.

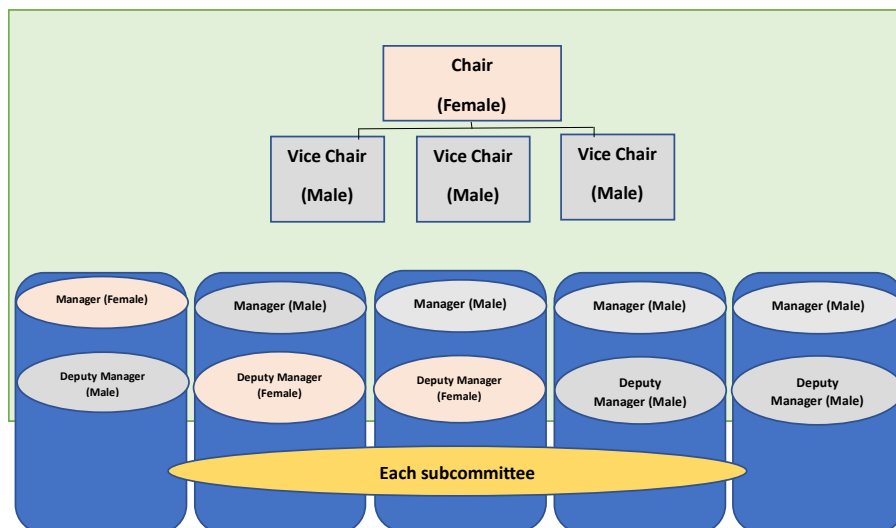
3. Research findings

The research findings are categorized into the following sections:

3.1 Gender ratio of Local Committees' Officers

Although nearly half of both local committee members are female, there are differences in the position women are placed in. In both committees, officers (steering committee) involve both chair and vice chairs. But in Asakura, only the vice chair of each section is involved, while in Asahigaoka both the chair and vice chair of each section are involved in Committee's Officers. This means opportunities to participate in decision-making are different for vice chairs in each local committee. If vice chairs are not involved at Committee's Officers, it will probably limit their chances of having their voices heard at the management decisions.

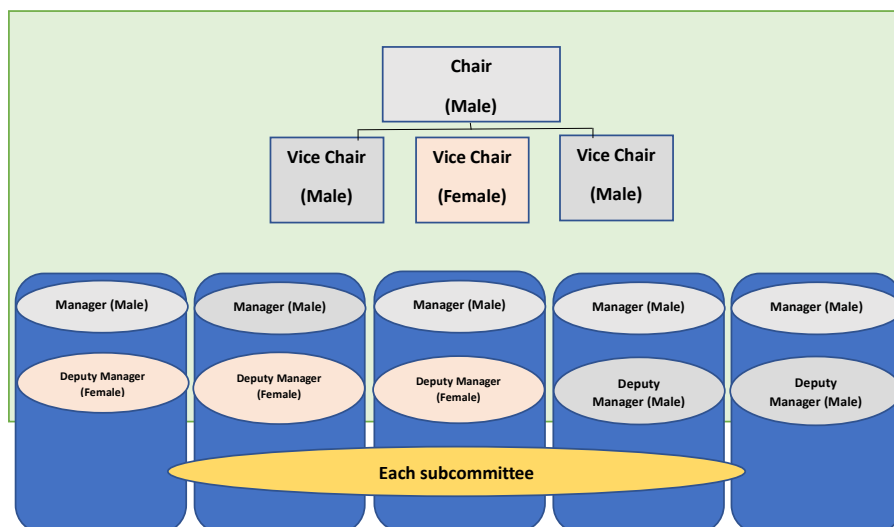
Figure 3: Gender Ratio in Local Committees' Officers in Asahigaoka Local Committee



Note: Male and Female Distribution of leadership positions in Local Committee of Asahigaoka

Source: Authors elaboration based on the Local Committee Composition

Figure 4: Gender Ratio in Local Committees' Officers in Asakura Local Committee



Note: Male and Female Distribution of leadership positions in Local Committee of Asakura

Source: Authors elaboration based on the Local Committee Composition

3.2 Selection of local committee heads

In Asahigaoka, the current chair of the local committee is a former PTA chair. Women are often appointed as PTA presidents there is a high possibility that women related to the PTA will become the head of the local committees as well. Many of the local committee members are from outside Seki City. Judgment is also essential when the Asahigaoka selection committee looks for presidential candidates. In Asakura, the local committee leaders come through the neighbourhood association. The neighbourhood association is usually dominated by men, which affects the local committee similarly.

The hometowns of the members of the local committees and the networks of local committee activities are divided between men and women. It could be a key factor in becoming the leader of the committee. Meanwhile, actively participating in various forms of local community activities, including the PTA, building networks, and recruiting residents (regardless of gender) as leaders, maybe a requirement.

3.3 Factors for high/low participation of women in local committees

There are several reasons or factors involved in the high or low participation of women in local committees. In Asahigaoka, which has a higher rate of women in local committee leadership compared to Asakura, PTAs are often chaired by women, so their role is prominent in assigning the lead to the local committee. In addition, the family members (husband, children, parents) have supported women as long as they have not neglected household chores. Support or positive view of male local committee members was also adequate and they felt that women and men are equally capable of leadership. This local committee did not select leaders just because they were women. The current female president of the local committee is selected because she is suitable for

this position and is accepted without any sense of incongruity. There is no distinction between “because it is a man” and “because it is a woman.”

In Asakura, the president of the neighbourhood association has been a man for many years. There has not been a qualified female candidate with sufficient experience to become the leader. According to the head of this committee, it is not that he wants to work with men alone, but he has never seen a woman who is responsible for the family and can hold a leadership position in a local committee. Women usually tend to prioritize their housework and family responsibilities. It is also not that women have low knowledge or ability, but that they don't want to take responsibility. Meanwhile, if there is an older man in a leadership position, women tend to respect it and not take the initiative.

There are several factors that prevent women from taking leadership positions in local committees such as prioritizing the family, the remnants of men's role such as agriculture, women's reluctance to take the initiative etc. However, in order to produce women leaders, it is necessary to solve these problems.

With the gradual generational change, the possibility of younger women who can exercise leadership will open up in line with changes in their social backgrounds. The key is how to attract the younger generation.

3.4 Exchange mechanisms among local committees to share experiences

Generally, local committees in Seki City do not seem to interact and know much about each other. Although local committee board meetings and bi-annual study sessions (local pride competition) are organized across local committees in Seki City for sharing experiences and activities, there has never been a discussion of women's leadership issues.

Due to this, the female leaders of Asahigaoka are not aware of their significant role in leadership of the local committee and do not assume themselves as role models, however, they are called to be role models according to Citizen Cooperative Division officers of Seki City Office.

Since the spread of coronavirus infections, opportunities to exchange information have decreased. However, after the Covid-19 pandemic is over, it is up to Asahigaoka Local Committee to show its “local pride” under the theme of “women's active participation” in the local committee and broadly share its experience.

3.5 Benefits of women's leadership role in the local committees

Both men and women respondents said there are many advantages to having women in leadership positions. By having women in leadership positions, the local committee can focus on women-related issues and challenges both in policies and practices. It also helps in creating an environment where everyone including men and women can work collaboratively. The perspective of women who think about what and how to implement and solve local issues is more rooted in their life and is likely to differ from that of men. The interviewees' responses are summarized as follows:

3.5.1 Policy

If women are in leadership positions, they will be able to develop policies focusing on women and women's issues in the area.

3.5.2 Smooth work environment

The presence of female leaders on local committees tend to make the work environment more collaborative and conciliatory. When men alone hold power, conflicts are often likely to arise.

3.5.3 Woman's perspective

When women are in leadership positions, they can integrate ordinary citizens' perspectives in the planning and implementing of the local committee activities. These perspectives are born from everyday life that men may not know.

3.6 Roles of Seki City Hall and NPOs in local committee activities

The NPO Vousmelan and Seki City Hall play an essential role in strengthening the activities of the local committees and interaction with the local community, such as keeping in touch to create a forum for sharing experiences between the committees, etc. They have also supported the participation of women in local committees, the participation and encouragement of young people in community activities, the formulation of five-year plans focusing on children's activities and the operation of town development citizen's conferences.

3.7 Issues raised by interview participants

Apart from the findings of structured and semi-structured interviews of the research, there are some important issues raised by the interviewees that would affect women's holding leadership positions either directly or indirectly. The mentioned issues are fewer numbers of young people in the local committees (especially in the management level), the way local committee communicates with people, awareness of the local people on existence and activities of the local committee, and remarks on top-down approach of local committees' structure. It should be noted that these issues may be a challenge for the whole Seki City local committees not specifically related to ones in Asahigaoka and Asakura areas.

3.7.1 Fewer young people

It was suggested by the interview respondents that more young people (especially young women) should be encouraged to take part in the activities of the local community. It is crucial that local committees recruit members not only through neighbourhood or PTA associations but also initiate new ways such as round table talks to attract participation of young people. By this, active and talented youth who are enthusiastic about the local committee and its activities would be able to become a member. It was stated by the respondents that by

joining new active and young women in the local committees, elderly committee members will gradually leave space for them.

3.7.2 Communication

Improvement of communication methods such as increasing face-to-face meetings and social gatherings to encourage and attract the participation of new people in local committees was another point that was strongly recommended by local committee members.

3.7.3 Awareness

According to the research team observation in Asakura, some community members do not have any information about existence of local committee and what they do. Although, those local people were aware of some social activities and attended the events organized by local committee in the past. It is found that since local committee disseminate details of the social events, people are aware of the activities and attend them. However, local people have no idea about the structure, objectives and members of the committee itself. It was also recommended that publicity using SNS etc. is required.

3.7.4 Top-down approach

As pointed out by Citizen Cooperative Division officers of Seki City Office, local committees are regarded as a terminal organization of local administrative organs. And as a result, the awareness of each resident is weak about it. The importance of a more bottom-up process was pointed out by the officers.

4. Limitations

One limitation encountered during a research study on the issue of women's access to leadership positions in local committees in Seki City was the language barrier. The researchers faced difficulty in communicating with the participants and obtaining accurate information due to the language difference. Furthermore, the study was limited by time constraints, which may have hindered the ability to collect a larger and more representative sample. As a result, the sample size was not sufficient to make generalizations about the issue being studied. This highlights the importance of considering language and time limitations when conducting research, as they can greatly impact the validity and reliability of the findings.

5. Final Analysis and Conclusion

Considering the research questions, we could sum up the research findings and analysis as follows:

Regarding the status of women's leadership role in Asahigaoka, women have a rich experience in community activities, such as PTA, receive support from their families, get support from male local committee

members and demonstrate leadership based on ordinary citizens' perspectives. Nevertheless, in Asakura, overall there are slightly more male committee members than female committee members. However, there are no women in managerial or leadership positions and above 50% of the members of the Social Welfare Division of the committee that hold events and activities are women.

The factors that contribute to women's leadership role in Asahigaoka Local Committee compared to Asakura Local Committee are several, individual, social and cultural factors. Self-motivation and self-confidence are the first and most important factors which will help women to take the initiative and leadership responsibilities. In addition, balancing the family house chores and child-raising issues while also involving in social activities that require more time is another crucial factor that helps women hold leadership roles. In addition, some cultural and societal barriers to women's presence in high positions than men are another factor that needs strong commitment from the government and local committee side to deal with and support women. On the other hand, understanding local opportunities and networks in the community help women build relationships with other active women, get empowered and practice leadership roles. Local committee's support, especially the local committee members' selection committee role, is essential in encouraging women to take managerial roles and also talk to their family members too.

The best practices of Asahigaoka Local Committee for strengthening women's leadership roles and participation in the local committee and how can those be applied to Asakura and other local committees in Seki City include, women's cooperation with other organizations in the community (PTAs, children's associations, etc., where there are many opportunities for women to play an active role) and collaborate with the local committee. However, the government and NPOs can send stronger messages to local committees to support and encourage women to take leadership positions and be involved in the decision-making process of local committees. Local committees could strengthen mechanisms to involve active local women, such as women who run businesses or have started businesses in the local committee activities (e.g., "Machizukuri Citizens Conference Policy Proposal Presentation", etc)

Reference

- Kitamura, (2022). Overall introduction to Seki City and Activities of Vousmelan, the local non-profit organization presentation to Nagoya University, Domestic Fieldwork Preparation Seminar.
- ILOSTAT; Gender Equality Bureau Cabinet Office, Japan.
- Roibu, I., & Roibu, P. (2016). Women Empowerment in Japan: policies and public's reaction.
- Usui, C., Rose, S.M., & Kageyama, R. (2003). Women, Institutions and Leadership in Japan.

Appendix

1. Questionnaire for Domestic Field Work in Asahigaoka (October 2022) Questions for Asahigaoka

Local Committee

1. Can you describe the number of women working in the local committee and their positions in the local committee?
2. How would you describe the transition from a man to a woman-led Local Committee?
3. What do you think are the reasons for more women's involvement in LC of Asahigaoka compared to other areas?
4. From your experience and learnings, how can other areas in Seki City improve their women's involvement in LC?
5. In your 10-year plan, do you have any capacity-building training or programs targeted for women to build their skills to compete for policy-level positions in the Asahigaoka area?
6. Does the Asahigaoka Local Committee plan to establish any kind of experience exchange mechanism (e.g. workshops, discussion sessions) with other Local Committees to share best practices?
7. Can the Parent-Teacher Association function as a strategic partner to promote women's active involvement in local committees?
8. Are there any challenges that the Local Committee chair has been facing while leading the Local Committee?
9. What are specific activities implemented by or in partnership with the Local Committees to promote welfare, especially for elderly people?
10. In a questionnaire conducted in 2019, one of the major issues of concern in the community of Asahigaoka was the existence of few activities that were attractive to single and elderly couples. Has this situation changed?
11. What could be the advantages of women in leadership/ women's high participation in the local committees for local committees and the local community?
12. What has the local committee done specifically for girls and women in Asahigaoka so far?
13. What advice would you give to other Local Committees to involve more women in their Local Committees?
14. How is Asahigaoka Local Community unique compared to other areas of Seki City in terms of women's participation?

1.1 Questions for Local Community members

1. Did you know the Local Community of Asahigaoka has a woman leading?
2. Do you think other women feel empowered by having a woman leading the Local Community?
3. What does it represent to the community? Especially for women?
4. Do you think women's involvement in Local Committees of Asahigaoka is higher than in other areas?
5. Do you think there is a need to increase women's participation in the Local Community of Asahigaoka?

6. How can other areas learn from the Asahigaoka area to encourage more women's participation in LC?
7. What is the major issue of concern the Asahigaoka area is facing currently related to women?
8. And how would you like the Local Community to address this issue?
9. Three years ago, some people in the community reported seeing some suspicious people, do you still experience similar situations? Do you think it affects women's security?
10. How do you evaluate Asahigaoka's local committee activities?
11. What could be the advantages of women in leadership/ women's high participation in the local committees for local committees and the local community?
12. What has the local committee done specifically for girls and women in Asahigaoka so far?
13. Are you satisfied with the local leadership of Asahigaoka?

1.3 Questions for NPO-Vousmelan staff

1. Do you think more women's involvement in the Local Community results in contributing better to the whole community?
2. With the Local Community chairman being a woman in Asahigaoka, what changes do you observe from previous terms where men were holding the chairman position?
3. How can other areas learn from the Asahigaoka Local Committee to encourage more women's participation?
4. What issue would you like the Local Community to address regarding women that they have not already addressed?
5. Are any changes you would like the Local Community to make in their current working system or methods?
For example, establish an official grievance system.
6. How can Vousmelan enhance its support to Local Committees in order to expand their activities?
7. Is a partnership with Parent-Teacher Association possible to establish a permanent and functional problem for reporting concerns in the community?
8. Have women's views of leadership changed since the Local Committee of Asahigaoka began to be chaired by a Woman?
9. What is the major achievement (to date) in the Cooperation with the current woman-led Local Committee, and how does it open a window for future cooperation efforts?
10. Are there any positive practices promoted by Asahigaoka Local Committee Chair, that if implemented in Asakura Local Committees can lead to positive results?
11. How do you think NPO and other organizations in the area could help local committees in promoting women's participation in LC activities?

2. Questionnaire for Domestic Fieldwork in Asakura-Seki City Questions for Asakura Local Committee

1. Can you describe the number of women working in the local committee and their positions?

2. What is the level of women's participation in Asakura Local Committees activities? What do you think are the reasons?
3. From your experience and learnings, how can other areas in Seki City improve their women's involvement in Local Committees?
4. In your 10-year plan, do you have any capacity-building training or programs targeted for women to build their skills to compete for policy-level positions in the Asakura area (in Local Committees and Government)?
5. Does the Asakura Local Committee plan to establish any kind of experience exchange mechanism (e.g. workshops, discussion sessions) with other Local Committees to share best practices?
6. Can the Parent-Teacher Association function as a strategic partner to promote women's active involvement in Local committees?
7. What are specific activities implemented by the Local Committee or in partnership with the Local Government to promote welfare, especially for elderly people in Asakura?
8. What could be the advantages of women in leadership/ women's high participation in the local committees for the local committee and local community?
9. What has the local committee done specifically for girls and women in Asakura so far?
10. What advice would you give to other Local Committees to involve more women in their Local Communities?

2.1 Questions for Local Community members

1. Do you think other women would feel empowered by having a woman leading the Local Committee?
2. Do you think women's involvement in Asakura Local committees is higher than in other areas? If Yes, how can other areas of Seki City learn from it? If No, what can be done to improve women's participation?
3. Did you know Asahigaoka Local Committee is chaired by a Woman?
4. How can other areas learn from the Asahigaoka area to encourage more women's participation in the Local Committee?
5. What is the major issue of concern the Asakura area is facing currently related to women?
6. If there are any issues, how would you like the Local Committee to address this issue?
7. How do you evaluate Asakura's local committee activities?
8. What could be the advantages of women in leadership/ women's high participation in local committees and the local community?
9. What has the local committee done specifically for girls and women in Asakura so far?
10. Are you satisfied with the local leadership of the Asakura Local Committee?

2.2 Questions for NPO-Vousmelan staff

1. Do you think more women's involvement in Local Committees results in contributing better to the whole community?
2. With the local committee chairman being a woman in Asahigaoka, what changes do you observe from previous terms where men were holding the chairman position?
3. How can other areas learn from the Asakura Local Community to encourage more women's participation?
4. What issues would you like the local committees to address regarding women that they have not already addressed?
5. Are any changes you would like the local committees to make in their current working system or methods? For example, establish an official grievance system.
6. How can Vousmelan enhance its support to local committees in order to expand their activities?
7. Is a partnership with Parent-Teacher Association possible to establish a permanent and functional problem for reporting concerns in the community?
8. Are there any positive practices related to women that are promoted by Asakura Local Committee, that can lead to positive results?
9. How do you think NPO and other organizations in the area could help local committees in promoting women's participation in their activities?

- 国際開発研究科 国内実地研修ホームページ URL
https://www2.gsid.nagoya-u.ac.jp/blog/fieldwork/dfw_ja/



- 過去の報告書一覧

- 『平成6年度国内実地研修報告書－地域に根ざした開発事例の研究－』
- 『平成7年度国内実地研修報告書－愛知県幡豆群一色町をフィールドとして－』
- 『平成8年度国内実地研修報告書－愛知県幡豆群一色町における開発事例の多角的検討－』
- 『1997－98年度国内実地研修報告書－愛知県東加茂郡足助町における多角的検討－』
- 『1999年度国内実地研修報告書－愛知県渥美郡渥美町における多角的検討－』
- 『2001年度国内実地研修報告書－愛知県南設楽郡鳳来町における多角的検討－』
- 『2002年度国内実地研修報告書－岐阜県郡上郡八幡町における多角的検討－Domestic Fieldwork Report 2002: An Interdisciplinary Approach to Development Issues in Hachiman-Cho, Gujo-Gun, Gifu Prefecture』
- 『2003年度国内実地研修報告書－岐阜県加茂郡東白川村における村づくり計画の多面的調査－Domestic Fieldwork Report 2003: An Interdisciplinary Research on Rural Development Planning in Higashishirakawa-Mura, Kamo-Gun, Gifu Prefecture』
- 『2004年度国内実地研修報告書－岐阜県加茂郡東白川村の現状と村おこしの取り組み事例－Domestic Fieldwork Report 2004: A Study on Socio-Economic Situation and Development Planning of Higashishirakawa-Mura in Gifu Prefecture』
- 『2005年度国内実地研修報告書－長野県下伊那郡泰阜村の地域開発へのこころみと自律への道について－Domestic Fieldwork Report 2005 Rural Development Planning in Yasuoka Village, Nagano Prefecture and Determination for Village Autonomy』
- 『2006年度国内実地研修報告書－長野県下伊那郡泰阜村地域開発へのこころみと自律への道についてII－Domestic Fieldwork Report 2006 Rural Development Planning in Yasuoka Village, Nagano Prefecture and Determination for Village Autonomy II』
- 『2007年度国内実地研修報告書－長野県清内路村に学ぶ住民と役場で改える地域づくり－Domestic Fieldwork Report 2007 Rural Development Management through Collaboration and Participation of Residents and Administration in Seinaiji Village, Nagano Prefecture』
- 『2008年度国内実地研修報告書－長野県阿智村に学ぶ地域再編下の住民と役場の協働のあり方－Domestic Fieldwork Report 2008 Collaboration between Residents and Administration under Community Reintegration, the Case of Achi Village, Nagano Prefecture』
- 『2009年度国内実地研修報告書－長野県阿智村に学ぶ村落再生と活性化への途方－The Ways toward Revitalization of Marginalizing Communities, the Case of Achi Village, Nagano Prefecture』
- 『2010年度国内実地研修報告書－静岡県浜松市にみる日本の工業都市の多面的課題－Multifaceted Challenges of an Industrialized City in Japan, the Case of Hamamatsu City, Shizuoka Prefecture』
- 『2011年度国内実地研修報告書－愛知県田原市に学ぶ地域の特性を活かした持続可能な発展に向けた地域開発の実践－Sustainable Regional Development Drawing on Local Advantages: Lessons from Tahara City, Aichi Prefecture』
- 『2012年度国内実地研修報告書－愛知県瀬戸市に学ぶ地場産業を生かした地域開発－Regional Development Reflecting the Values of the Local Industry: Lessons Learnt from Seto City, Aichi Prefecture』
- 『2013年度国内実地研修報告書－愛知県瀬戸市に学ぶ地域開発における行政の役割－Regional Development Reflecting the Role of Local Government: Lessons Learnt from Seto City, Aichi Prefecture』

『2014 年度国内実地研修報告書－三重県大台町に学ぶ自然と人びとが幸せに暮らすまちづくり－
Community Development for a Happy Life of People with Nature Lessons Learnt from Odai-Cho,
Mie Prefecture』

『2015 年度国内実地研修報告書－三重県大台町における U ターン・I ターンとまちづくり－U-Turn, I-
Turn and Community Development in Odai-Cho, Mie Prefecture』

『2016 年度国内実地研修報告書－まちとむらをつなぐ－愛知県豊田市農山村地域の取り組みから
－Bridging the Urban with the Rural : Efforts Made by Rural Areas of Toyota City, Aichi
Prefecture』

『2017 年度国内実地研修報告書－愛知県豊田市農山村地域におけるまちとむらの協働－Twining
Partnership between Villages and Towns in Rural Areas of Toyota City, Aichi Prefecture』

『2018 年度国内実地研修報告書－愛知県一宮市における企業誘致と繊維産業の活性化－Investment
Promotion and Revitalizing Textile Industry in Ichinomiya City, Aichi Prefecture』

『2019 年度国内実地研修報告書－愛知県一宮市における繊維産業の活性化と子育て支援－Revitalizing
Textile Industry and Child-rearing Support in Ichinomiya City, Aichi Prefecture』

『2021 年度国内実地研修報告書－愛知県における在日外国人の現状－Situations of International Residents
in Aichi Prefecture』

2023年3月発行

発行所 名古屋大学大学院国際開発研究科

〒464-6801 愛知県名古屋市千種区不老町

ホームページ : <https://www4.gsid.nagoya-u.ac.jp/>

電話 : 052-789-3993 FAX : 052-789-2666